THE Y.W.C.A. MONTHLY

女子青年界

明治三十七年五月七日第三種郵便物認可
大正十年九月一日發行(毎月一回一日發行)

女子青年界第十八巻九月號

夏期修養會號

要目

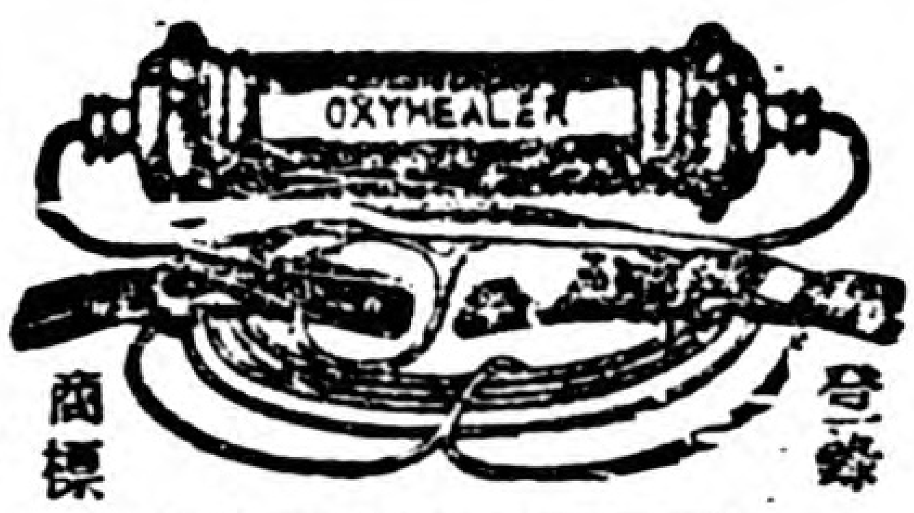
日本基督教女子青年會發行


消化と毒けし
仁丹
金言
默せる婦人は最上の賢明（西諺）
汝を愛す仁丹よ!!
汝と與に幾度の夏を心から涼しく健康に愉快に暮せし事よ
月清く虫喞く……今は尚更汝を離し難し。片時も。

◆其實驗說明書の發行十六版を重ね◆

本器は會主前島震太郎の創製にして江湖に提供して以來八箇年

酸素療器



▽邦文 支那文 治病實驗例附說明書贈呈▽

オキシヘーラー

▼オキシヘーラーの効力顯著なる事は使用僅か五分間にして三乃至五ミリミリの血壓を亢め一時間を繼續せば實に十乃至三十ミリミリの活力を增進す試に血壓計、脈波計を以て驗せば其調節の狀を明にし各自は脈搏呼吸、體溫の整調に依て自覺せらる

▼靈妙なる磁氣應用の本器は斯して血液中の酸素吸引力を增大し健康の元素を補ふが故に難治の疾病を根治するに空前の偉力を有す論より證據使用者は忽ち脈搏强實となり全身の溫暖、呼吸の深長を感じ次で熟睡、解熱、鎭痛、食慾の亢進、兩便の快通等生理的本能を回復するの神速なるは實に天下の奇蹟なり

特色（使用法簡易効力永遠不滅にして電池の如く消耗するものにあらざれば器械購入以外永遠に何等費用を要せず

正價金參拾五圓

送料 內地金參拾六錢 支・朝・臺・樺金六拾五錢

愛用者實に數萬を算して信用愈々確立决して他の模倣を許さず

東京市牛込區神樂町一丁目一番地

◇オキシヘーラー獎勵會◇

電話番町特長三〇七・四六八九・振替東京二七一二




プラトンインキ
萬年筆用
事務室用
學生用
スタンプ用
もうプラトンの天下です！
百千萬圓の大取引も經濟世の大文字も十中八九はプラトンインキを假りて表現せらるゝ時代となりました
日本文具製造株式會社特製
中山太陽堂文具部發賣

女子青年界　第十八巻第九號　大正十年九月一日發行

結ぶ實

河井道子

北陸の貴子さんと申す一少女から「結ぶ實」と云ふことについて聴かせてとの手紙が伊豆の温泉場に届きました。九十度以上の暑氣とは云へ最早秋と思はせる蟲の音を月夜にきく昨今は、秋の心仕度にかゝらねばなりません其矢先に結ぶ實につきはなせとの注文は、天來の聲の如くにひゞきました。

聖書に「誰か荊棘より葡萄をとりあざみより無花果を採ることをせん、凡て善樹は善果を結び惡樹は惡果を結べり」とあります、これを普通の言葉にて申せば、原因と結果で、惡い原因から善き結果のあり得べき事なく、善原因が惡結果を來たさぬのであります。神が至善、至愛、極美の神であるから、其神より惡や罪の來るわけがないと力説したのがヤコブで、彼の中には「誘はるゝ者は神われを惡に誘ふと云ふ勿れ、神は惡に誘はれず、亦人をも誘ひ給はず、凡の善賜と全き賜はみな上より諸の光明の父より降るなり、父は變ることなくまた轉動て顯るゝ影もなき者なり」と、即ち神様には四方八方善を代表した光明で照り輝き惡の暗い影が何處にもないとの意です。其故に天道是か非かとの疑問は信徒にはないので、何でも神のなし給

ふことは善であり、私共に善の如く思へぬ場合は是は私共が神の旨が理解出來ぬ時であります。しかし又私共が原因した惡い結果を此も御旨だなど丶、とんでもない咎を神に歸すことがあります、此等に深い注意が入ります。

次に考ふべきは、私共に實を結ぶとは何であるか、又いかなる果を結ぶかであります。これも又聖書にある種播の譬で充分に説明してあります、(馬可四章參照)、私共の心は田畑の樣で神の道の種子を播れると其地味如何によつて、三十倍、六十倍、百倍と實を結ぶのです。假令ば或人は信者になつたので、自制することを得た、次の人は信者になつてから只に自制丈でなく、己に勝ち進んで家人友人の爲に盡力することの出來る人間となつた、第三者は其等以上に遂に人のため世のため大小となく努力して此世を神の國にせんために心をも身をも勞した人となると申しましよう。第一者が禁酒家になり、第二者が家族友人を禁酒家にしたとすると、第三は一村、一郡、一國より酒を驅逐する迄の人物となつたと云ふ如き意味です。尙又これを他の方面の人に當嵌ますと、信者になつてから第一者は己を清くせんとのみの信者、第二者は慈善や傳道に協力する信者、第三者は大傳道者、殉教者たるパウロの如き人格となる信者とでも申ましよう。神の目の前に於て、いづれが一番偉かは存知ませんが、確に地上に於て三十倍の信者、六十倍の信者、百倍の信者と、其信仰も、獻身も、勇氣も、働きばへも異なる者がたしかにあります。病床にあつても百倍的の信者もあれば完全な健康で順境にありながら、やつと三十倍的のものもあります。兎も角私共の心に神の力が加はる時は常に立派なものであるではありませんか。

世には己の心さへ清ければと申す人が多くあります。私共は己の心は清くないから清くして貰はねばと申ます、又清くなつた丈でも神の數、神の力が加はらなくては殆ど田畑がよく鋤返しても其地には種子が播

れない中は何も生へませんと同樣です。心を淸くするのは己の罪を悔改ためて神の敎を得ること、其心に神の敎を實行する力を與へられるときには立派な人格となる、これが即ち實を結ぶと申ことでしよう。しかしこゝに氣を付けることがあります。其は樹にて見ると、果實はなりはじめますが、食べられないやうなものでは、何の役にも立ちません。本誌八月號にもありました樣に。日本の御庭にある芭蕉には小ぼけな果がなりますが、御飾に過ぎません、同じ種の芭蕉でも臺灣のバナナは如何でしようか、其果の立派で風味も結構ではありませんか。或は又澁柿を甘柿にしたり、小な梨子を大くしたりするに接木をして、甘味果物にすることゝ、私共の澁い妙な性質や、ガリガリでとり處もない樣な頑固な片意地な人間が、キリストに接がれて、神にも人にも受入れられ、役に立つ者になれるのであります、こゝに私共の果がなると申されます。

然るに根をしつかりと持つたキリストの幹に接がれずして、よき果を結ぶことは不可能だと、主エスが申されました。是は過言でしようか熟考してみましよう。心に謙遜が少しもなくして、外面丈謙遜であつても、眼のある人は決して彼を謙遜者とは申ません。慈善心でも、只人に賞められやうとしたり、正直らしく裝ひながら内心は僞で充滿してゐたり、口では友人を賞めつゝも内心には嫉妬の焔炎々としてゐたり、貞操を唱へながら、心は汚たる性慾を喜ぶなど、何日迄も其儘に外部に眞實が顯はれずに終りましようか、決してそんなものではありません、惡樹は善果を結ぶことが出來ず荊棘から葡萄は採らぬとは明言であります、外部丈よく見えた内部の腐敗は眞の宗敎卽ちキリストでなくては全治しません。確にキリストを離れては誰も出來ぬのであります。かく申せば、「未信者で立派な人格者はどうですか」と反問されましようが、其立派な

人々もキリストを信ぜられるならば、今より以上に立派な人格者となり、よりよき果を結ばれましよう。果はなりましても小かつたり、澁くなくとも甘味が少ないのが、大さも甘味も滋養分も充分になる道があれば、其方法を採るがよろしいと誰もおもひます。米國には學術的に植物に樣々の變化を來らせて良種のものを產出させるフエヤバンク博士の働は世人を驚歎さしめます、物質界に既にかく進化をさせる事の出來るのは、精神界にこれと同樣、否其以上の進化がある立證であります。これがキリストに接るゝに依るのであります、彼を信じ、彼の敎へられし通り日常生活をいたすのであります。さうして、祈や聖書を習ふことや敎をきくことや良き人々に交ることや、修養するなどは、蟲取りをしたり肥料を與へるやうなものであります、これ等をも大切視しなくてはよい果は出來ません、これで神と人と共に働く必要を感じます。

實子さん御判りになりましたか、まだ澤山かき度いですが、紙數に限りがありますからやめます。又御質問して下さい、可成御返事申上るやうにします。

御名の樣によい實を御結びのことを御祈申上ます。

（伊豆長岡ニテ）

今年の標語に就て

マタイ六章十九節より終まで

金井爲一郎

標語について、共に神の靈のたすけにより、敎へられたいと思ひます。此基督教の最大の問題に就て、說くのに時間もたりません、充分に說きつくすことも出來ませぬ。しかし神の國と云ふ問題は基督教の全部を、おほふ一つの大きな思想即ち基督教を一貫した方針主義と云ふことが出來ます。

基督は傳道のはじめにあたり、「神の國は近づけり、汝等は悔ひあらためよ、福音を信ぜよ」と叫び給ひました、總ての教も自ら實行を以てあらはされ、また實例も神の國を此世に建設せんがためあらはされました。

さてこの基督教は時代により向上してきて居ります。即ち宗教改革當時はあがないと云ふことを大變ときました。其後リッチルと云ふ學者が出て隋圓の中に二つの中心がある樣に、神の國と、あがないと二つが基督教の中心となつてゐると說きました。併し其說の通りでなく、基督教は神の國が全部をおほうて居ます。これに達する門として、あがないが必要としてあらはれて來るのです。

基督の傳道せられたことは、主の祈にあらはれた精神、即ち神第一とするところの思想生活であります。神の榮を第一とし、神の旨が行はれ、神の目的が成就せられてゆく、そして、そのために一切のことが用ひられる、人間、社會はこれがために使用せられる、これが卽ち神の國の精神であります。

神の國を世界にうちたてる點につき、二つの考へかたがあります。其一つは、神の國と云ふものは人の心

のうちに現在してくるもの、實に精神的の王國であると云ふことです。今一つの考へかたは神の國は全く超越的、やがてきたるべきもの、今は其の準備期に過ぎないと云ふ說。

併しエス、キリストの神の國とおふせられたお語の中には兩方ふくまれてゐるのであります。或時には已に來たのであるとおふせられました。即ち主は仰せらるゝに、「神の力を以て惡鬼を追出したのならそこに神の國は來て居るのです。神の國は汝等のうちにあります」と精神的にお說きになりました。そしてキリストは、多くの例を話されたそのうちにある如く、神の國はこの世に於てみえない精神のみでなく、精神があらはれて全世界にむかつてあらはれて來るものであると云ふことを確信しておられます。即ちはじめは個人の精神のうちよりはじまり、次第に廣くおよんで、やがては全世界をおほふところのものとなる、これが神にさからつておるやうにみえたとしても、いと小さく見える神の國の福音はやがて全世界をおほふ福音であると樣々に說かれました。

其神の國の內容性質とはこれまた主の祈及山上の垂訓にその思想がよくあらはれております。つまり、神の國の根本たる性質は神を我々の父として、絕體の信賴をはらふことであります。神がキリストに於て我等の父であると云ふ、確信をあたへて下さいました。したがつて、我等は神の子であると云ふ意識がおこつて來ます。こゝに永遠なる神により、わづかなる生涯をもつておる我々の間に不滅なる關係があらはれて來ます。やがてこれが人々におよぼす時に我々の同胞兄弟姉妹となつて、すべてを統括する力となるのです。即ち神に對する愛、兄弟姉妹に對する愛、是等を統括してゆくのであります。

この神の國は誰がたてるべきか、イエス、キリストであります。彼は神の國を指導完成し全うするところの方でいらせられます。實に神の國に入るのは、キリストと直接の關係があります。私共がキリストに對す

ることにより、神の國に對し忠不忠がわかります。神の國はエス、キリストをはなれては空想的のものであります。

然らば神の國に入ることの出來る者は如何なる者か、舊約聖書に示されてあるやうな法則とちがひ、私共自身の實行によるのであります。實に神の國は恩寵として私共に與へられたものであります。

義とは何か、神が内的に人の心の中にはたらいて實行となつてあらはれてくるもの、すべて神の聖旨にしたがふ愛です。義といつても、つめたい義ではありません、キリストとパウロの說いた義は、ちがふやうに思へるが、其精神に至つては同一であります。

パウロはローマ書のはじめに、神の義は、恩寵により信仰を通して與へらると說く、キリストの山上の垂訓も同じであります。ともすると、私共とけんかくの甚しい時失望せざるをえないのです、つまり私共の何かした報酬と思ふから、そうでなく、私共めぐみとしてすべての事が與へられるのです。キリストも「心のまづしき者は幸なり、天國（神の國）はその人のものなればなり」とおふせられました。自分の靈のおろかなもの、切にまづしきを感じ、みたされんことに感じ、キリストのもち來られた報酬なしのめぐみをうけることが出來るのです。パウロによれば、信仰によつてうける恩寵これがそのめぐみであります。我々はその義を神より求めんとするにあたり、しばしばまよふのであります。

一言すれば其義はイエス、キリストに於て完ふされておる。キリストにまねかれ、そのまねきにしたがひ、これにむかつてやむことの出來ない渇望を以て、いたゞくのが神の國の義であります。キリストはパリサイ人に對し、其多くの形式にとらはれたところ、ぎぜんを以て神の聖旨にかなう樣にしやうとする態度を攻擊なさいました。ほんとうにへりくだり、悔改てゆくべきものそれがキリストは神の國の義であると宣べつた

へられました。

この神の國の義は個人より集團におよぼさなければなりません。キリストのお話のうちの百匹の羊の例の様に、一個の靈のうちに大きな價値がありますまた百匹と云ふ團體としての中において若し一匹かければ全體に於てまつたくないわけです。

神の國と云ふものは一個の靈のすくひでなく、世界的に神の聖旨にかなふ人々がみつるまでと云ふ精神があります。常に自分のことを考へると共にはるか大いなる神のことを考へなければなりませぬ。

イエス、キリストは先づ神の國と其義をもとめよと、聖書の中にもある通りいつもかたられました。

世の中の多くの人々が求めておる者は衣食住の問題か名譽であります。何等か異つた野心の爲にうごかされやすい、其中にあつて、キリストの弟子となつた者は、第一着として神の國を求めよ、と云ふのが主眼とされております。此世に生活する以上食はねばならない。パンを與へよの聲は高くなりつゝあります。そしてこのさけびの爲には、人々はどんなことをするかもしれない。「餘力があれば神のことをせよ」とさけぶ人々は誠の意味に於て神につかへるものでない。

私共のあとより、種々の苦しみがおそつて來ると思ふ時キリストは私共におかたりになります、神は私共に生命をあたへたまふた。このおどろくべきところの命をあたへ給ふた神、このことについて考へると、我々は努力して生命をえたのでなく、めぐみとしてあたへられたのであります。實に愛なる父は我々にむかつて全世界に聖靈をあたへたまひました。その父上樣がすべての補助をあたへたまふことは當然であります。心配する必要はありません。私共に靈をあたへたまふた神はよく私共のことを御存知でいらつしやいます。故に私共は神の國を中心において神のため、榮光のため、神の精神で世界がおほはれんため、私共はたつべ

きであります。若し國家のために徴兵に行く者がある時は其人は何も物質上に於て心配はありません、國家が供給するから、同樣私共が神の御國にキリストの理想にむかつて、私共自身をさゝげ、聖兵としてはたらく時にはすべて必要なものはみたして下さいます。これは神の責任として當然あたへたまふ、めぐみであります。

神の國に入ることとは、若し私共がもつてきた精神思想と云ふものとキリストの思想と一致しないところがあれば、くひあらため、自己中心を神中心にうつさなければなりません。そこにあがないと云ふいみがありますが、時がなく今説くことが出來ません。一言にいへばイエス、キリストを信ずることによつてこれに入ることが出來ます。

婦人は多く主婦として一家をおさめる責任があります。そして各々が一家をおさめつゝ神の國を實現せんとするものが其人々の目的でなければなりませぬ。

私共の生涯にうけた、たまものにしたがつて性質がちがひます、しかし一貫した目的に一致するものがあります。御國建設のこゝろ是れによつて、一つの精神とならなければなりません。短い生命其理想に於て永遠性をもつ、永遠のわざが其人を通して何等かの形に實現せられております。眞に心から祈り、神をしたふた者が、やがてキリストに母、姉妹、友とよばれる者となります私共は小さい者でありますが、こうゆうものとしてまねかれております。

世の中にはいろ〳〵の問題があります、私共の心はそれにひきつけられます。しかしそれは、はたしてキリストの教へたまふた祈りの中心である神の榮光をもとめておるか、それに生きておるかどうかであります。若しさうでなければそこには永遠性がありません。イエス、は不滅のものを我々にあたへたまふております、實にこうして考へ及んでくる時に靜かに神の國を思ふ時に私共の一日のはじめにおいて、生命の若き日に於て、先づ第一に神の國と其義とを求むべきであります。

（在文責筆記者萩村）

イエスの熱愛

武本喜代藏

ローマ書八章卅一節――終

何故私は神の愛を云はずイエスの愛と云つたかと申しますと私にはイエスの愛がなければ神の愛がわからないのであります。多くのクリスチャンは神の愛はわかるがイエスの愛はわからないと申しますが私には丁度其反對である、イエスの愛がなければ神の愛がわからない。例へば多くの人は神の愛がちきわかる自然界に接した時花はきれいに咲き鳥は歌ふではないか又人は元氣であるからして神の愛がよくわかると云ふ、しかしそれは自然界の一部のみで此自然界は一面々見ると悲慘なる有樣弱い者は強いものゝためになぶり殺しにされて居る、即ち弱にく强食である。此方面を見ると神は愛でなく慘酷な方であると思はれる。

しかし、歴史を見れば神の愛がわかるでせうか、否其中にすらも、善良な人が虐待を受けて惡が榮え即ち義人が虐待を受け惡虐が榮えてゆく事を我々が見る時に歴史だけ見ても神の熱愛をうたがひます、神の愛と云ふわかりきつた事だと思ふ所の神の愛の事すらも、もし千九百年前に現はれたエスの愛の御姿が、即ち氣高い人道の火がもえて居つたイエスの御姿がかくれた時宇宙は茫然として何所にも神の愛らしいものが見えなくなつてしまひます。

私にとつてはエスなくして神の愛はわからない、元來我々は自分に似よつたものを理解し同情します、犬でも猫でも馬でも多少我々の愛かわかるけれどもそれは淺薄なものである、また我々以上のもの又は天使等

の如きものがあつても其ものとは我々の交渉はピッタリと合ひません。

私共には人間と一番よく共鳴し同情し了解する事が出來る。若し神が我々に近づいて我々を救ふと云ふ神があるならば、其神は動物でもなく、又天使の形で現れ給ふのでなく、人としてゞなければならぬ神人となつて我々を救ひ給ふ、即ち我々の所に來り人間となつて我々と生活をなし我々と同じ狀態になつて來て下さらなければ永久に神はわからないと信じるのである。二千年前エレサレムに居られたエス我等と違はぬ三十有餘の青年職工が神の化身とは如何にも馬鹿らしくそれが神の獨子であるとは想像がつかない、併しそんな考への起るのは神の偉大の方面ばかり見て神が如何に小さく無限であるかを見ないからである。例へば我々の住んで居る宇宙は大である、此大なる事は種々の天文學の研究によつてわかる。此宇宙には少くとも十二幾億の太陽がある、これが即ち一ツの宇宙である、これだけだと思ふとそうでない十二億の太陽を一つとして宇宙が更に三十萬もある、此事を考へると茫然としてしまふ、理智も想像もつかなくなる。

しかしながら之れは宇宙の大なる方面で小から云へば又無限です、バイキンの中にも宇宙があるかわからない。例へば數へる方から云ふと加算は限りないし又減算もどこまで行つても無限である、即ち大も無限小も無限である。これは宇宙の狀態である。神は宇宙の創主であるこれを支配し給ふ神が如何に無限大であるかと考へると同時に如何に又無限小なるものであるかと云ふ事が想像が出來る。針の頭にもゐ玉ふことが出來る此宇宙を支配し給ふ神が自分の机の前にも臺所にも病床にも貧のあばらやにもゐ給ふと謂ふ事が何故迷信と云ふのであらうか。人格の中に神が自らを現はし給ふと云ふことは當然です。世にも人格ほど貴いものはない、宇宙の大なる神は其人格をやどし給ふイエスを救主と信ずる事が何故わるいのであらうか。例へば幼稚園の樣に先生が子供の如くになり子供と一所にならねば感化は出來ぬ樣に神がはなれて居つては救ふて

とが出來ぬ、そこで絕對な超越的の神が我々を救ふべく人格を通して接近したまふ。人間である即ち同じ人間である所のエスの中に神が自らあらはれたまふた事を我々は信ずる即ち彼の涙は神の涙、彼の怒は神の怒又苦痛も皆神のそれである。エスの胸の中に燃えてゐた熱愛は即ち神の熱愛である、我々はエスの胸の中に燃えてゐた愛、如何なる人をも愛したまふた愛をのけてどこにいつて神の愛がわからう、神がキリストを通して神の愛を示めしたまふた事が何故わるいのであらうか。エスは終りまで弟子達を愛し給ふた即ちヨハネ傳の十三章にあらはれた如き愛、生涯を通して傳道したエスの胸の中には人類を愛する愛が萬世まで燃えて居た。ポーロの如き偉大なる敵を愛に感じさせ最大の味方にしたのも愛の不思議な力がキリストにあらはれのたである。これ即ち神の愛である。

しかしこゝに一ッの疑問がある。エスは確かに弟子を愛したであらう。然し千九百年後の今日こんなものは何にもならない、今日尙我々を愛するとは形容ではないかしら、御生涯の中には愛したかも知れない、しかし今は我々に關係ないであるまいか、若しさうであるならば「我靈を愛するエスよ」の讃美歌をやめてしまはなければならない、さうなるとわからなくなる。

が併し— He is still living です、主は弟子にあらはれ天に上り給ふた。肉體は不在であるが同時に現在は靈の化身として今も尙生きて居給ひます、肉體は去つたが我々は靈體として主を見る事が出來る。此地にゐ給ふ時は制限されて居つたが今は制限を脫却して居る。エルサレムにゐたまふた時は我々と同樣であつたが、今は聖靈として到る所に居たまふ事を我々は確信する、活ける人格として、キリストが尙現在したまふことを信ずるならばはじめて此等の讃美歌の意味がわかる。

世界が始まる前から我々と云ふ個人があつた。そして永遠から永遠にまで神の愛は續いて變らない、此不

戀の愛は世をも動かす力がある。我々は時々思ふ罪深いそむける私を神が何故愛し給ふか、世の王公貴人を愛するのならばわかるが何の價値もない私を何故愛するか。しかし、それは母の愛と同じ樣に愛さずには居られないから愛するので理窟はわからないがうれしくなる涙がこぼれる。しかしこゝに又一つ疑問がある神の愛は誠に結構であるがそれは人間の想像であり片思ひかも知れない。エスの愛は聖書にある、我々もさう願ふが片思ひではないかしらと考へる時淋しくなり元氣がなくなる。しかし福音書に書いてある神は汝を愛すとある。しかし少し學問したものは此點に疑ひをいだくやうに成る。近代科學の進歩は、

第一、場所として宇宙が非常に廣く成つた。

第二、時間が無限に延長された、世界が初つてから僅か六千年位と思ふたのが幾千萬年、甚だしい億を以て數へらるゝ程長く成つた。

第三、は進化論です、即ち神が御手もて作つた我々はアミーバーの中から發達したと考へて見るとうたがはしくなる。

かふ考へてゆくとキリストの福音の意味もうたがはしくなる。此樣な廣い天地殊に進化した幾億の一ツゝの人間が罪を犯かした其者を神が愛し給ふとか多くの人間の中から一人神にはなれたものを神がさがし給ふなどゝ云ふ事は信じられない。しかしながらこんな事を考へるのは皮相な淺薄な考へである。何故ならば先刻云つた樣にえらいものは大きいものではない、象は私より大きいと思ふがえらいと思はない、太陽が大きいと云つても人間一人の價値とくらべものにならない。靈的存在物たることから云へば我々は宇宙より大なりと云ふ事が出來る。私の樣なものですらも宇宙の最大なものと云へる、ましてエスに於てをや。我々の個性の中に深みがある神に通ずるえらいものがある、何物も匹敵することの出來ないえらいものがある、思想家のパスカルが「深淵の如き個性の深み」と云つた、實に個性の中に偉いものがあるのです。かくの如き我々を神は愛し給ふ。これが何故に迷信であらうか、よし神が全宇宙を忘れる時があつても罪になやみ朝な夕

な神を求め所る私を神は決して忘れ給はぬと思ふ。これを思ふとうれし涙が流れる、感謝せずに居られない何より幸なものと感じられる。どんな所に居つてもまた私共が人類とか人間とか云ふと宗教的にはもつと個人と云ふとそこまで云はなければならない。

一體人間と云ふ者はない、私とか貴方とか云ふものはあるが人間と云ふものはない。人間と云ふ者はさはる事は出來ない、一番確實なものは私である。私が仰いでアバ父よと神を呼ぶ時そこに神と我との交渉が出來るそこには何物もない、そこに入つた時に兄弟姉妹よと手を握り心から愛さずには居られない。神は我等の一人がまよへばたずねて下さる、萬世を通じて其愛は不朽である。我々は最も價値のないものであるこれを神はえらんで下すつたと云ふ事は嬉しい、えらい者をえらばずつまらぬものをえらび給ふ神の個人的熱愛を我等は體驗しうれしくなる。如何なる所にも神は共に居たもふてどんな不幸の中に沈んでも神は晝夜守つて下さる共事を思ふと何の失望もなくなる。

最大の神は私の枕のそばにも居つて下さる此愛が愛を燃やした。エスに現はれた神の熱愛がナイチンゲール、やブース、又は石井十次氏の如き、又リヴングストンの如きに表はれた愛の化身、人格をエスのみがあらはして居るのである。今日も今後も人道の博愛の英雄を引き起す、世界が神の國となるまでは次から次と愛の熱は燃える、人の爲に盡したくなる、敵を睨めなくなる、そして生涯を自己中心になれなくなる、神の前にひれふす時に神の熱愛は我々の心に燃てくる。之は倫理や修養ではない。エスに現はれた神の愛に燃やされよぎなくするのでなく、しないでは居られない社會奉仕でなければならぬ。我々は共に居たまふ彼を信じ彼により私ない生涯を送りたいと考へる。

ウエスレーが馬で傳道した時田舍のある家に行つた。其時彼は九十歳の老齢であつたので家族は彼に止まつて責めて一週間でも靜養してゆく樣に云つた。しかし彼は年を取れば取る程主の前に出てゆく時が近くなるから忙がしい、とても休まれないと云つたとか。私共も始終神の爲に働き全生涯を主のためにさゝげ、神の栄となつてゆく事が、神に對する忠義である。此中にエスの熱愛が生れてくるのである。

東洋問題

吉野作造

東洋問題とは日本と朝鮮、日本と支那、日本とシベリヤ等の關係を云ふのであつて、各々異つた立場を有つて居るが、一つ同樣の點は至る所で日本が嫌はれて居るといふ一事である。而して其理由は共通の缺點がある爲である。然し日本と支那との關係は中就最も代表的なるものといふ事が出來やう。

日支の關係は日清戰爭後漸次發展して、今日に至つたものである。其以前にも少しは交捗があつたが唯僅に商業上の關係と、國が近いので自然往來も多いといふ位に止り、西洋文明を取入るゝ事に急なる日本人は支那に對して幾多の輕侮をさへ感じて居た。然るに日清戰爭後、當初は純然たる政治的の方面から漸次日本人が支那內部に入り込むやうになつた。之は日本のみではない、何所の國でも戰爭に勝つと、すぐ其後から軍事探偵を敵國に入り込ませる。之は他日其國が復讐を企てる場合の準備の爲である。斯樣なわけで日清戰爭後日本の軍事探偵が多く支那に入り込み、革命黨の人々と結托して國狀を詳に視察して居たのである。殊に日本人中の第一部の人々は革命黨員と深い關係を結び殆ど支那人になりすまして活躍したものである。斯樣な事實がなければ、日支の關係は今日のやうに深くはならなかつたのであらう。

明治卅一年の頃、當時英國に亡命中の遜逸仙を、日本に呼び寄せて保護した事なども日本の或一部の政治家の魂膽であつた。彼等の考へは遜の支那に於る勢力を利用しやうといふ點にあつた。

同年支那に一種の革命が起つた。其原因は日本に敗けたのは支那の政治組織が惡い爲であるといふので政

治革命を起すにあつた。之は外人殊に英米の宣傳敎師等によつて起つた一種の文化運動であつたのである。而して其急先鋒は康有爲といふ人であつた。此運動は失敗に歸し、康は、日本の大使館に保護されたのである。斯くして日本の政治家は遜逸仙と、康有爲兩革命家の提携を迫つたのである。之は勿論實現さるべき性質のものではない。我國の政治家の過失は、何事に對しても根本の理解のない事である。遜と康とは現在の政治家（支那の）保主々義に反對する點は同一であるが其革命思想には大なる差異がある。その根本の差異を理解せずして提携を迫つたのは愚の至りではないか。其後例の義和團事件の後、革命的の運動が一つは遜逸仙により、他は康有爲に依つて起された。遜逸仙の運動には日本人で彼の友人となつて居たものが多く加はり、之は主として日米人の計つたものだと云はれて居る。其頃遜は支那全國を改革する爲に、福建省一洲位は日本にやつても仕方がないと考へて居た。（今は左樣な考は毫頭ない）。卅八年頃遜は當時米國に亡命中であつたが日露戰爭が、或は革命の機會となるかもしれぬと考へ、再び日本に來た。

中華革命同盟會の設立は此頃の事であつた。此同盟會は遜、康の結托と及學生團とによつて組織せられたものであるが、此留學生團は殆ど悉くが日本に留學せしもので、皆排日思想の者であつたのである。前述の如く、遜、康の主義は全然異つて居た。前者は飽く迄理想に立脚して事を計り、後者は外國の有樣と自國の樣とを比較して實際問題より革命を企てんとしたのである。之が一度結托はせしものゝ直に兩者の提携を絕つ原因となつたのである。遜逸仙の第一革命が切迫すると今迄所謂支那浪人と呼ばれて居た一部の日本人は漸次遠ざけられて終つた。個人として遜は日本人に對し友誼を感じて居るが、國としては現在好意を有つては居らぬ。日本の政治家達が外交上に支那人の體面を認めぬ事、彼等の心底を理解せぬ事等は大なる誤りである。

吾等國民として事實のありのまゝを承認し、日本の支那に對する取計いは日本人全體の考へでなく、國民としては大いに不承知である事を明にせねばならぬ。

（在文責筆記者淺井）

神秘とは何ぞ

富永徳磨

神秘は宗教には大切な要素である。神秘がないならば宗教には生命がなく、うるほひがないと言はざる得ない。今日の日本に於てはもつと此の方面を養はねばならぬ。

然し神秘には種々なる意味があつて其の意味によつては價あるものになりまたなきものになる。神秘は世間普通の意味では、不可解こと、宗教的の事でかくれたることを指して居る。元來神秘と譯した、ミスチクはミステリー mystery と同根の語で目を閉ぢたと言ふ字義である。そこで神秘と言ふ語には不可解といふ意味もあるのである。確に此の意味の神秘も宗教にはあるべきはづである。宇宙には知るべからざるもの大いなるものが存在して居り又目に見えざるものもある。故に人が眼に見える所ばかりを信じ、自分の理解し得るものばかりを信じ、其以外を否定して生きて居るならば我々はごくせまい世界に生きなければならず甚だ淺薄な生活をしなければならぬ。目に見えざる所のものが一面にあり知識にて知り得ざる所は無限に廣い神もまた我々がいろ〳〵なことを通じて知るほかに、まだどんな大いなるものであるかわからないのである。そこで不可解といふ意味の神秘もあるべき筈であるし、あつた方が可いのである。

如斯なつてくると分らないといふ所に價値がある樣に感ずるものがある。けれども分らない事が尊い譯ではない。迷信ほど不可解の分子が多い。九星や淘宮や大本教の類は全く不可解であるが然も決して價値あるべきものにあらずかへつて人生を害するものである。キリスト教はこの意味に於ては最も神秘的な所の少ない

宗教である。キリストが處女マリヤより產れ、十字架につけられ罪の罰を受け死にてはうむられ三日目に甦へり、天に昇り能はざる所なき父の神の右に座し最後に天より降つて世人を審判し給ふと言ふやうな信仰は神秘的のものである。がかゝる神秘ある故にこれを信ぜよと言ふ人があらば其れは基督教を解せぬ人である。なぜならばキリスト教は神秘なるが故に信ぜよと言ふものではない。或は分ることなら信ずる必要はない分らないことを信ずるから信仰ではないかと言ふ人もあるが、分らないことを信ぜよと言つたとて信ぜられるものでない。さうすれば理性を暗くしてしまふ人間を生れもつかぬ白痴にして仕舞ふ。一派の基督信者の中には、科學の書物を讀むではならぬ、カーライル、エマーソン、ラスキンのものを讀むではならぬ。シエーキスピア、ゲーテ讀むではならぬ、其は罪を犯すのである。讀むべき書物は唯だ聖書一冊あるのみと言ふ人々がある。此は宗教は分らないものを信ずることゝ誤解して居る所から起つた間違ひである。若しこんなことが神秘ならば神秘には何の價もない。

然れども神秘は唯だ分らないと言ふ意味ばかりでない。他の意味がある。即ち神秘主義の有して居る意味である。其は何ぞ、肉體の感覺に依らず又推理に依らずして我が靈で直接に神に接し神を知ることである。此れ神秘であるが實に美はしき神秘である。我等は確に目で見ず耳で聞かず、又色々と物の道理に由て推し考ふるに非ずして直接に神に交り、神に包まれ、其の無限の富を受け、言ひ知れぬ幸福を得ることが出來る。

唯だ然し此も容易く感覺的のものに陷る憂がある。人は精神で直接に經驗したことに直ちに聯想をくつ附けて幻覺を起すものである。多くの見神談は其である。特に婦人には其が多い。同じく神秘者でも聖テレサが基督の近く在すことを感覺したり、自分の脅を槍で刺されたと感じたり、又はジャンダークが佛西を救へといふ諸聖人の聲を聞いたりしたことは即ち神秘が感覺的に陷つたものである。

然れども純粋に霊的なる神秘主義がある。それはベルナール、トマスアケムピス、エツカート、ヤコブベーメなどといふ神秘者の經驗したものである。ベルナールは一滴の水は色もなければ味もなく香もないけれど葡萄酒の中に落つれば一變して色も味も香も葡萄酒となる、一片の鐵は黒く冷たく醜いものなれども爐の火の中に入れると同じ火になつて仕舞ふ庵室の空氣は暗く冷たけれども日の光さしこめば同じ光にて透化されて仕舞ふ。我々の霊は極めて小さく弱いものであるけれども、神の中に沈む時にそれと同じ性質をもちそれによつて美はしきものになるのであると斯う言つた。アウグスチタスは神よ我れ何所より汝を呼びまつらんや、何所に汝を迎へまつらんや、何となれば我は汝の中に在るものなればなり、汝は凡の上にあり凡ての中に在したまへばなりと言つて居る。斯ういふ神秘主義がある。我等もかゝる神秘を幾分でも經驗するものである。例へば心をこめて祈をするときには、やがて我もなく世界もなく、唯だ祈る心のみが動いて、自分は全く神の中に融け入つて仕舞つた事を覺え、言ふべからざる平和と愛とを感じ、何物も動かすべからざる力を覺える。ベルナールがあゝ我神よ／＼と言つて何も他に言が出なかつたといふやうな氣持になれる。此れ神秘である。ヤコブベーメを時の人が評して魚は水の中に住み鳥は空氣の中に住む、ヤコブベーメは神の中に住むといつたり、スピノザを神に酔つた人と言つたりしたのも、彼等の神秘の狀態を稱したものである。此れ霊的の神秘にして甚だ美はしいものと言はねばならぬ。

けれども此の神秘主義をも非難する人がある。それは第一には此れは餘り個人的經驗であつて他の人には分らないことだといふこと、第二には此れは自分の霊と神とか直接に交はり、神の中に自分が沒して仕舞ふといふので全く瞑想的に陥り無活動になり隠遁主義になつて仕舞ふといふこと、第三には此れは自分と神と直接に交はるのであるから基督を要しないことになるといふこと。此が理由である。此の非難は確に道理の

あることで、中世の神秘主義はどうしてもさうなる患があるのである。

然らば神秘主義は何れも不健全ゆゑ之を排斥せねばならぬかといふに、さう考へた人もある。ルーテルも最も神秘主義を嫌つた人である。近代では獨逸のリッチュル及び其の派の學者は何れも神秘主義を斥けて居る。けれども宗教はどうしても神秘を除き去ることが出來ぬ。人の心は矢張神秘を要求する。そこでルーテルの如きは成程神秘主義を排斥はしたが、其は其時代にアナバプテスト派と稱する狂信者の仲間があつて、自ら聖靈を受けただの、預言者だのと稱して世を騒がせ、名高い百姓戰爭といふものまで起し、諸大名も手古摺り、ルーテルも持て餘した事などのあつた、ため、神秘主義はいけないものだとしたのであつて、ルーテル本來は神秘主義に反對でなく、却つて彼は神秘主義を豐に藏した人格であつたのである。「義人は信仰に由て生く」といふ語が其の心に電の如く閃めきこむだ時の經驗だの、又は聖晩餐に關してクリストが麪麭の中にも葡萄酒の中にも在し玉ふといふ信仰だのは其を證明するものである。今のリッチュル派の人と雖も決して神秘主義の全く拔けた人々ではない。例へば前に言つた三大理由を擧げて神秘主義を非難して居るヘルマンにしても、其の著者『基督信徒の神との交通』は却つて一種の神秘主義の主張である。

然し之まで神秘主義と稱へられて來たものは、或は上に述べた缺點を有して其の弊が其の長所を打ち消すかも知れないが、玆に一つ最も健全なる神秘主義がある。其は聖書の中に在るパウロの神秘主義ヨハネの神秘主義である。ロマ書六章によればパウロはバプテスマを解釋して、バプテスマは一旦水に全身を沈めて再び水より出づるのであるが、此れは舊き罪ある自分が一旦基督と共に死で葬られて、今度は新しく聖き自分が基督と共に生きて出て來るのであると言ひ、己れは基督と一體になつて一たび基督と共に死で仕舞ひ、更に新しいものが基督と共に甦るのであると説いた。同章六節に『我等基督に接がれて其の死の狀に等しか

ちば又其の甦りにも等しかるべし」とあるが、此の「接がれて」は木の芽を臺木に接ぐと同じ字を用ひてある。我等が基督を信ずるのは唯だ基督をえらいと思つたり神の子だと思つたり處女より生れた死より甦つたと思つたりするばかりではない。パウロの信仰といふ語はもつと生きた心の働きを意味して居る。心が基督を思ひ基督を慕ひ之に憧がれ之に傾き注ぎかゝるやうな狀態を指して言て居る。そこで斯ういふ信仰を基督に向つて抱いて來ると、我等の靈は基督に接がれたのである。接がれた芽はもと臺木と異つた木である。初は二つの生命である。けれども其をよく縛つて置くと軈て臺木の生命は接木の方に流れ入る、後には全く一つの生命となつて、臺木の生命で花を咲かせ實を結ばせる。我等が基督に憧れ基督に心を傾け注いて居ると、初は隨分異つて居る靈でも、やがて基督の生命が我等の內に流れ入る。基督の思つて居る心が我等の內に湧き上つて來る。神を父と信じて之を賴り之を慕ひ其の心を行ふやうになる、深い心を以て物を思ふことが出來るやうになる、人を眞心から愛するやうになる。それは基督の生命が這入つて働きをし出したのである。かくして基督の生命の花が咲き實が結ぶ。パウロは斯く言た。彼は自ら此の經驗を强く鮮にして居たのである。

　パウロは基督の此の新らしい生命が自分の內に流れ入つてどうしても抹殺すべからざるものゝあることを覺えた。其は水道鐵管の破裂した時のやうに一時に自分の靈を顚覆して仕舞ふものではなかつた。寧ろ其の注ぎ入る有樣は細い管で池に水を引くにも似て極めて徐々であつて、此の靈を受けても初の內は舊い自分の頭が尙盛に働き、嘆き苦むで戰つて行くのであるが、やがては其が充ちて凡ての汚れた心を抑しのけて、靈の內を全く基督の新らしき心のみにて一杯にする望が確かであつた。そこで彼は之を神の靈の印を受けたものと言ひ、又永遠の生命　手附けをわたされたものと言つた。此の基督の靈を受けて居ないものは基督に屬

するものでないが、此の靈が人の内に働いて居るならば、之に由て人は肉體は罪に由て死でも靈魂が義に緣て生くると言つた。パウロ自身はもはや我れ生けるにあらず基督我に在て生けるなりと言た。而して此の受けた靈は奴隷たる者の如く再び恐を懷く靈に非ず、神を父と呼ぶ神の子の靈であると言た。パウロは基督より靈を注ぎ入れらるゝや神を父と呼び得るものとなつた。即ち神の子の自覺を得たのである。そこで靈が神の子となつたのであるから、生活が變つて來る。おのづからにして基督の生命の花を咲かせ實を結ばせる。パウロは靈の結ぶ實は仁愛、喜樂、慈悲、良善云云と言て居る。

以上はパウロの四大書翰（羅馬、哥林多前、同后、加拉太書）に由て見た神秘主義である。四大書翰は此の神秘主義で充ちて居る、特に羅馬書六章から八章までは其を言てある。けれど後の書翰、以弗所、腓立比哥羅西書になると、此の神秘主義は一層著るしくなつて居る。パウロには基督の血が我等の罪のために流されたことを信じたが、然し多くの教會の信ずるが如く、基督が我等の身代りになつて死んだことを信ずれば赦はれると言はず、パウロは基督の人格其者を愛し慕ひ憧がれることが信仰である、かく信仰すれば我等の靈は罪より背いて基督に傾き倚りかゝつて居るのだから、神は之を赦して義人として取り扱ひ玉ふ、其と同時に基督の靈が人の靈に流れ入つて人を生き上らせ、基督と一體となし、基督の心で物を思はせ、事を行はせると言たのである。此れ神秘主義ではないか。然も健全にして最も力強き神秘主義ではないか。

ヨハネの書いたものゝ中には又頗る豐富に此の神秘主義が溢れて居る。「我は葡萄の樹汝等は其の枝なり」と基督が言はれたと傳へてあるのは、パウロが「教會は肢體にして基督は其の首なり」と言た思想と同じく、最も神秘的なるものであつて、基督と我等との關係の極めて生きた間柄であることを示して居る。約翰傳の中には基督と神とは一つである、基督と弟子等とは一つであるといふ思想が到る所に唱へられて居る。基督

を信ずるものは全く基督と心が一つになつて、何等隔りがなくなり基督の思ひが思はれ行ひが行はれるやうになることを經驗し之を言ひ現はしたのである。

パウロ、ヨハネ其他新約聖書の中にある神秘主義はかくの如きもの。私は之を聖書的神秘主義とか或は福音的神秘主義(Evangelical Mysticism)とか唱へたいと思ふ。此の神秘主義は前に言はれたやうな弊害が更にない。神の顯現して人類界に活動した耶蘇基督と一體になることであるから、決して個人的になり奥義的にならぬ、何人も經驗し得ることである。又之は決して無活動でない、愛を以て生き愛を以て死にたる基督と共に生き共に死ぬるのである、我等の生活は盛に活動的となる。又之は基督なくしては有り得ざることであるから、中世神秘主義の弊害の一つだもない。

又此の神秘主義は決して不可解のことでない。我等の經驗する所であり理解することである。人の靈といふものは人間同志でも互に交渉し互に其の内容を注ぎ入れ合ふものである。百人の群の中に一人立派な人格が居れば、其の人の靈の内にある思想はいつの間にか他の人々の靈の内に流れ入つて行く。他の人々は生れてから曾て思はなかつた高い思想善なる思想を何時の間にか抱いて來る。外にはそんな思想はなかつたので、唯だ其の一人のみが持て居たものだとすれば、其は確に其の一人の内から流れて來て他の人々に這入つたものに相違ない。ところがこんな事實が人間世界には充ちて居る。感化といふは是である。人間同志でさへ是だとすれば、まして無比の大人格、愛と榮と眞とで充ち溢れ、何人が見ても神の子として崇めざるを得ぬ基督の靈の內容は、之を信じて心を傾ける人々に向つて大水のやうに注ぎかゝり其の内に湧き溢れざる理があらうか。

又此の神秘主義は結果が甚だ大きいのである。中世の神秘主義は靜かに神の中に融け入つて無活動に歸し

て仕舞ふ恐があつたが、然し此の神秘主義は常に人を愛し人のために一切を獻げ十字架にまでかゝれる基督と一體となるのである。基督と共に神を父として仰ぎ神に賴り神に委せ平和と喜びとに溢れて居ると同時に、又基督と共に人を愛し世界を救ふ活動をして居るのである。そこで自分の内に非常なる宗教的の幸福が備はると共に、品性もおのづから聖く美はしからざるを得ぬ。基督の姿が己れの内に次第に成就して行くのであるから勿論さうである。又之と共に他人に對しても愛を以て接し事に處しても基督の心を以て之を處して行く。家庭の中では夫に對し妻に對し、親に對し、子に對することが、一々基督が生きて其等に對して居ることになる社會についても世界についても同じである。親子の間が純なる心を以て相愛して居ると次第に親の心は子に流れ入り子は何もかも親の心を以て思ふやうになり、親が名譽とすることは子が名譽とし、親の恥づることを子が恥ぢ、親が或事を行はんとすれば子が獨りでに其を行ふやうになるが、基督と神秘的に一體となるものも其と同じになり、人格は二人でも一人格と同じになる。其の時は幸福きはまつたものであり、天下何事として能はざることとなく、家庭も社會も圓滿無礙喜樂に充ち滿つるのである。

私は之を眞の神秘主義だと信ずる。私は之に由て宗教的要求の滿足を覺えて居る。又之に依て力ある宗教を持て居られると信じて居る。此の神秘が無いならば其の宗教は乾燥した宗教である。然るに今日まで此の神秘を經驗した人は割合に少い。サミユエル、ラサフオードなどには此の神秘があつた。婦人ではマダムギオンに於て幾分この神秘を見る事が出來る。然し尙中世的の臭味が豊である。まして諸教會は殆ど此の神秘を忘れて居る。宗教は唯だ不可解の教義の個條を並べて其を否應にして承認もすることになつて居る。然らざれば實行の個條を書き拔いて其を守つて行くとゝなつて居る居る。力ある筈がなく樂みある筈がない。諸教會の宗教は旱天の水車を見たやうなものである。我等は宗教には眞の意味の神秘のなくてならぬことを

思ひ、パウロの如きヨハネの如き神秘主義を實驗して、更に〳〵生命あり潤ひあり喜びあり力ある生活をせねばならぬと思ふ。然り基督の生命が直ちに我等の生活となつて現はれ花を咲かせ實を結ばせねばならぬと思ふ。

聖書(Testimony)

村岸榮子譯

川は大海を滿さずに
各がひそかな水源に歸る、
風もまた各が道筋に吹き歸る。

我等の財寶はしみくひさび
盜人うがち、亦は自ら
翼を生じて飛び去るだらう、
夕に食をしたゝめて樂しむ人は
その夜生命のとらるゝを知らない

笑ふ事それはからつぽだ
樂しむ事、それが何の益である、
私はかう言つた、そして書きつけた
みにあは一人々々太陽の下で
如何に安逸であり乍らまた苦痛だが
如何に健康であり乍らまた病弱であるかを。

人は空漠たる蔭の力を歩んで、
空しくその心を騷立たせる
あつたものはまた有るだらう、

我等は砂の上に
内も外も美しい家を建てる、
されど颶雨起つて撲つ時は
土臺石のない爲めに根底から覆り倒る。

萬象空漠――かく私は言つた、
さう、空の空である、
富豪も死ねば貧乏人も死ぬ、
そしてその屍には蠕虫が群りたかる。
汝は何物を缺くとも只一つ、
凡ての物の塵にかへることを信賴せよ、

たゞ一つの相續産、
それはよき者も惡しき者も緒に等しく
見出して分つべきゆづり、
汝はそれを信賴せよ、
此所で惡人は詭計を止め
疲勞者は安息を與へらる、
覺者の智慧も玆には空の空のみ。

人は木の葉の如くに茂り榮えて
また落葉の如くに過ぎて行く、
或は一つ所に長く止り得ぬ影の如くに
何等の跡をとゞめない。
生の道程は短いのだ、
然るに人は死ぬその瞬間まで
嘱望し、戰慄し計畫を立つ――
あゝ、愚かな人よ、

我等の眼は見て充ちず、
我等の耳は聽きて飽き足らはず、
されど我等は種子を播き
家を建てゝ土地を買ふて構へを擴ぐ、
我等は富を集め思ひ煩ひを集め乍ら、
誰が世嗣主たるかをしらないのだ。

何故我等ははさまで朝まだきより
急いで起きるのか、
しかも夕の憩は晩かるに。
我等の勞働は空しく、最善の希望も消え失する、
我等の心は虚僞の上に立つ、
げにも我等は風をたねまいて
まことに旋風を刈り入れるのだ。

僅かを持つ者は事缺かず、
多くを持つ者は滅び行く、
祖先は行つた、そして我等も逝く、
我等の子等は同じ道を辿つて來る、
かくして時代は蹲いては起き
來つてはまた行く。
土壤は我等の屍を以て肥えふとる
なをも彼女は飲み盡さうとして瞬時も止まない、
されば彼女の道には膏滴り、葡萄酒流る、
木の背高く繁茂して緑濃く
刈り上げたる束の數しれず。

さればをとめは歌を止め
壯者は悲しげの面を擧ぐ、
さればたねまきは喜悦少く
收獲には悲哀が多いのだ。
高底、大小、をしなべて
唯一つの運命は空の空漠たること。

エルサレムに假居した一人の帝王、
彼は地上で最高の賢者、また富者の君。
然るに彼は生れ乍らに得し財と快樂とに
氣をば腐らせ疲れ果てゝ、
日のめぐる下、物とし物が
空の空なる事を知つたのだつた。

（クリスティナロセッテイ作）

基督に對する遠近法

森　明

エスの御在世中に多くのエスをしたふ者が出來たけれども、エス御自身と、直接な、深い交り、卽ち人格的な接觸をなす者が、大變少なかつた。エスの御事業は人がエスの御自身を如何に見、如何に近よるか、如何なる關係になるかと云ふ事か、其根本の要求であられた樣である。

エスが忙がしい傳道の時をさいて、個人の關係を見る爲に、十二人の弟子を伴なつて、カイザリヤピリピの村々を訪れられた。一般的な社會事業や傳道を置いて、根本的な事域に弟子達を赴かせられたのである。田舍の靜かなエスと、其れを慕ふ十二の弟子と如何に樂しい、考へ深い思ひをもつて、旅をつゞけた事であらう。スイスのエスの傳記を見ると、其の靜かな中にエスは如何に居られたか、滴たるばかりの自然になつかしまれ、田夫の生活を持たれたかゞ書いてある。群集の前で社會事業やいろ〳〵の事を說かれる、熱烈な傳道の時と違つて、弟子達はどんなに此の淋しい村々を泊り歩く事によりて、主の一擧手一投足を見た事であらう。エスよりほかに賴るもののなき彼等は、是非エスのみを見つめて居なければならなかつた。

エスは如何なるものか、それは我々にもはつきりして居ない。思想上の興味からはたやすい、しかし體驗に及ぼすに至つては非常にむづかしい、一切をすてゝ彼に從へ。エスこそ我等の生活の目的、根本的生命の中心である。かゝる問題に到着する其時、私共はおじまどはざるを得ない。エスとの關係、わかつた樣でエスがわかつてない、或は重荷を感じる。

絶對的におしせまつて來てる及ばない物の樣な感じがする。愛は苦しむのである愛が樂しい、嬉しい中は餘裕がある。しかしエスの愛は苦しい。わき見を許さない。己れを許さない。其の熱烈燒くが如き運命が、我々に及んで居るのである。キリスト教は斯ふ云ふ難かしい、眞面目な時、仰ひでます〳〵及ばない事を知る。そしてこれはもつと強い生命の問題である、と云ふ事を感じるだらう。宗教はもつと嶮しい生命の問題である。エスは我等に運命を通じて進んで來る事をなぞかけしていらつしやるのではないかと思ふ人もあるだらう。我等は近づいて猶ほ遠いエスを見るのである。近づけば近づく程遠いので早くも人は入り得ない者ではないかと失望の色を見せる人もある。此の問題を如何に解決するか？

エスはカイザリヤピリピで弟子達に如何におつしやつたか？　それはエス御自身の關係を明らかにする爲であつた。エスに從ふすべのものは、この問題を與へられて居る。淺薄でない、もつと深い意味に於てもつてる或物を代表するものである。エスに對する見解に二つある。

一つは近づいてます〳〵近く感じるエス（人と見る）他の一つは近づいてます〳〵遠く感じる遠い、偉大なキリスト（神と見る）この見方はエスの御在世中から弟子の間にも、あつた思想である。今日でもこれについて議論はしない。これはエスの人格の異常な事をあらはして居る。神か？　人か？　それ程まぎらはしい高い處にある人格である。エス論を知らなくても、只其の端くれを知れば、それで充分である。

人間性のエス、宗教の天才、それは近代の思想家によつて花が咲く樣に、彼方にも此方にも見られる。我國にも武者小路君に、又は倉田君にも見られる。教會の中にもある。我々に近いキリスト、我々の主、兄弟なる、キリスト、その人格に向つては我々は小さくても近代人が金城鐵壁と守るものを破つてまで及ぶ事は出來ない。これは人たるキリストで

ある。和すべくして動ずべき者ではない。總體的には圍まれても、絶體の域に達する事は許されてない。

神か人か？　カイザリヤピリピに於てエスは此の問題に結着を付けんと爲た。そして「我を誰とするか？」との問題を出された。人々はエリヤ、エレミヤ、豫言者宗教の天才として居る。

汝等は誰とするか？　世の許ではない。短力直入。右にも左にも身をかはす餘裕の無い樣に、正面から責められた。神としてエスを見るならば、今までの生ぬるい生活は出來ない。思想なら優しいが實行となるとむづかしい。淋しい時の慰め、心配な時の救ひ、我れ生けるが故にキリストに何事もまかせる、其の樣な主義で、或方は成功していらつしやる。神か人かの問題は、思想の歴史にも、關係が深い。ギリシャ思想の川を流れてるものはキリスト教思想である。ギリシャ思想の根本は我である。我が生きてから、他人も生かさうと云ふのであつて未來ではなく、現在を思つて餘りに遠い世界を思ふ事はしない。しかしキリスト教はつねに未來を思つて居る。ヘブル書十二章の如く信仰は未だ見ざる處を信ずるのである。限りある者より、限りなき世界を望んで、己の力よりも神の力に絶對に信賴して、自分の智慧に頓着せず、導かるゝまゝに行くと云ふ態度はキリスト教の態度であり、これは冒險であり、飛躍である。信じて飛び込む信仰は理屈ではない。宗教的體驗で生命を得る事である。行ふ事と味ひ知る事とは生命である。

しかし體驗のみなら我々は失望する。體驗の域を越えて進むのが信仰である。未だ見ざるものを信じて進むのである。ウイリアムジエームスも、ジエームスウードの樣な化學者も冒險によつて自由を得ると云つた。これは我等の要求である。少しでも餘有のあるところにエスの思想はない。

それは永遠と自己を神の中に投げかけてから生命を得るのと自己否定から初めて行くものと、どつちも眞理である。近代の文明は認識から初める事を特

とふ。實際の世渡り、これからの道をどんな態度で進んで行つたらよいか？　それはキリスト其の者の解決と信仰と態度によつて期せずして、解決される問題である。我々は神のあらはれなるキリストを知らなくてはならない。我等の様なものでも、愛はある。水火の中でもキリストの爲なら行かふと云ふ信念もある。

エス傳を二つに分けて人としてキリストを描かふとしたものと、エスを神として描き出さうとしたものとに分ける。

人として書き出したエス傳は人間性を越えた神たる處まで行かなければならない。

神だ神だと思つて書いてもやつぱり、人である、我等の友であると云ふ處まで行かないと止めない。神から人となり、人から神とならなけりや止まないエス我等は何れを信じたらよいのだらう？

しかしエスは如何考へて居られたか？

エスは御自身神の子なりと云つて居られる。

ペテロノ「汝は生ける神の子キリストなり」との答へはエスの思ふ壺に入つた答へであつた。エスは自覺して居られた。そして弟子達が本質にふれた態度で進んで行く事を待つて居られた事がこれによりてわかる。斯ふ考へて行くとエスは近づいてますます遠い。弟子達ですらエスの十字架、復活を見て惑つた。ペテロでさへも、元の生活に歸らうとした。復活したエスは偉大で、人間ではなく、永遠限りないエスであるから、今更の様に振り返つて見た時人間のエスは親しみやすいけれども、永遠限りなきエスははるかに遠いものであつたのである。

トルストイならよくわかる。しかしキリストのキリスト教はわからないと云ふ人がある。何故ならエスは、あまり崇高で清く、及び難いから、しかし、トルストイは、我等と同じに苦しんだから、同思想から云ふとポーロの書翰の解譯の方がエス傳よりも近い。ヨハネ傳の敬虔な説よりも、ロマ書を讀んだ方が近く感じられるのである。

近いキリストを仰ぐ方がよいか遠いキリストを慕ふ方がよいか？

人間味の多いキリストの方がよいか？　神聖味の多いキリストがよいか？　遠いものは近いと云つた時代に於て如何にして實驗に於て經驗に於て人はキリスト教から離れ難くなるのか？

エスは極めて遠い。しかしポーロがあり、ペテロがあり、而してルーテルがあり、カービンがあり、リビングストンがあつた。そして今世界中の人はキリストを救主と信じて居る。學者も哲學者もキリストを信じたのである。この生けるキリストの人格は歴史的に遠ければ遠い程我等に近いのである。これ等の人々を通す事によつて私共は弟子達の持つ事の出來なかつた確信を與へられて居るのである。エスは人類を救つた。歴史をうごかした。十字架、復活、永遠を除いて我等に眞のキリストはない。眞に深刻な運命の事件に遇つて、又は罪に惱む時、又は不思議な壓迫の中に於て、我々に最も近いものは何であらふ。子供は日常は自分と同じ位の人が最も近い。しかし病氣や傷を受けた樣な時には、智慧も年齢も遠い、大人が最も近い者に思はれる。見も知らない醫者が近いのである。

斯かる事實が我等の心の中にもある。人間としてのエス、壓迫の中に住まれた宗教の天才、輝くばかりの人格を見て、涙ぐみもする。しかしそれは日常の友ではない。苦しい經驗の來た時に其のキリストは親よりも、兄弟よりも近いのである。何故なら彼は普だん遠いから。若しも彼がエレミヤや、イザヤであつても我々には興味は無い。しかしエスは神の一人子であつて、我々は彼を思ふものであるからうれしい。

人はむづかしい、薄氷をふむ樣な生活に於て何が最も尊といか？　それは遠くを見る事である。

綱渡りでも舟遊びでも遠くの目的を見つめて行く事によつて成功する。

我々の信仰の過はポーロの初めの如く一足歩んで

敷いて居る樣では望みがない。我等の生命はキリストを見つめなくてはならない、眞に彼に賴つて慰めも、望みも彼に置いて行くならば救はれるだらふ。人生の目的は只一人、キリストの尊い人格、朽ちない愛の深い、エスである。罪の身のまゝエスにゆだねて初めて新らしい生命が來る。人生の苦しみを見ろく、キリスト敎の見地まで疑ひ度くなる。しかし私共はさうありたくない。今知られてるエスは彼の全體ではない。我々が進んでほんとうの確信をもつて進んで行けばもつと〳〵知られるのである。私共は眞に山をうつす樣な信仰をもつて、我々の大きな事件にも、個人的の問題にもキリストに賴つて行き度い。

　近世のキリスト敎の中でキリストに宮仕へする事が流行する。其中には水晶の樣な美はしいものがある。理解して樂しむキリストでなく、ほんとうに彼の兵士として馬前に死するを得る信仰である。キリストの爲めなら萬事を棄てゝも從ふ、それが聖い生活、活きてるものゝ生活である。

　斯くしてキリストを批評したり、彼と對抗して、失望したりする事を逃れて、過まつた、けがれた生活を棄てゝ、變つた、淸い生活を仕度いと思ふ。

　これがキリストによつて完成される事を信じて、個人であつても、團體であつてもさう仕度い。

　力を合せ淋しいもの、弱い者が手をとつて、神の助を求め、祈つて行くなら、信仰によつて世界の黑雲を突破することが出來るに違いない。

　人生は暗い。しかしキリストの生涯を、我等は逐つて行かなければならない。（在文責記者）

「人の播く所は、その刈る所とならん。己が肉のために播く者は肉によりて滅亡を刈りとり、御靈のために　く者は御靈によりて永遠の生命を刈りとらん。われら善をなすに倦まざれ、もし倦まずば、時いたりて刈り取るべし」。

生涯の意義と目的

神戸女子神學校　織田ヤス子

人間は或る時期に於て何となく淋しい、物足りない、空虚を感ずる。恐らく此處に集つて御出の御方の中にも既にそう言ふ心持をなすつた方も又、今なさりつゝある御方もあらふかと思はれる。

試に問ふ、人間の最大大悲劇は何でせうか。世に自殺を遂げる人間がありますがあれは如何なる人生の危機に立つて居る時でありますか。人間は生きたい。死は苦痛であります。生あるものゝ死を喜ぶと言ふは決して尋常の事でありませぬ。人間は生きん事を欲する。然しながらその生命も單に無意味な存在を時間的に續けて居ると言ふ事だけであるならば多くの人の中には却々生を厭ふ所の人もあるべしと信ずる。無意味に目的なくたゞ生きて行かねばならぬと言ふは慥に人間の悲劇で有る。故に世に在りて己の見る所遂げられず事心とたがひ、世吾に背き、目的悉く破壞せられしと思ふ時に人は己の存在の意義を見失つて却て生命を呪ふに至るのである。

故に人の生きて有らん爲には人は必ず己の存在の意義を明確に意識し己の存在の目的を惑はず望んで居る事が必要件である。

抑も人は如何にして此の存在の意義を知り、存在の目的を望み居らるゝか。如何にせば波瀾多き人生の航路に櫂は折れ、舵は摧かれて、望み全く絶え果つる時にも猶破壞の手の届きえぬ高さに於て又深さに於て我が存在の意義と目的とを望み居らるゝでせう。よし死する時も猶死を越えて生の意義と目的とを知りて永遠の春に生き得るでせう。

全體人間の生きて行く意義と目的は孤立して生行

く人には解る筈が有りません。人は親に連り、子に連り、夫に連り、妻に連り、友に連り又廣い人類に連りて行く處に何がため生れ、何がために生きて居るかの意味と目的とを發見するのである。

或る學者は生命は關係なりと申したが、生命の依屬性といふ事がある。僅に人間は互に依り懸る處にのみ眞の生命が生れ、生命が成長して行く。生きて居ると云ふ事からその意義と目的とを失つた時に生命は無に等しくなる。又人間の存在の意義と目的とがたゞ關係といふ條件ありて意識せらるゝとせば、實に生命は關係なりと言ひ得られるのである。言ひ換へれば人と人と連る事によりて否神と人と連る事によりて生命が發展して行くのである。「吾は葡萄の木汝等はその枝なり」。

ヨハネ傳三〇三六に御子を信ずるものは永遠の生命をもち御子に從はぬものは生命を見ず。

同一七〇三には永遠の生命は唯一の眞の神に在す汝と汝の遣し給ひしイエスキリストを知る事なりとあります、此の處に語られてある眞理は、生命、永遠に朽ちない生命、それは、唯一の眞の神と其最高顯現であるイエスキリストを知る事である。

知ると言ふ事は何か?、善い友達を知己といふ、知己とはベスト、フレンドの事です、即イエスキリストとベスト、フレンドになる事により人間は神と、ベスト、フレンドになる事が出來る。そして此の神との知遇が人をして永遠の生命の本質をつかましめる即如何破壞力も屆き得ぬ生の意義と目的とを明確に知らしめるのである。

扨て神の友となるとは何の事ですか。此ヨハネ傳に使はれて居る「知」といふ事には少くとも三つの意義がある。即ち一は、神をかく〳〵の神と認め、二は、其の神を信じ、三は、其神を愛する事である。

皆樣は如何に、神を知つて御出になりますか。神を知る事は實は神に知らるゝ事であり、神の知り方如何がいかに神に知られて居るかと言ふ意味にもなる。如何樣に神に知られ又神を知りつゝ、皆樣は今

日まで來られたか。是に至り私自身實に千萬無量、殆ど言葉が無いのである。神より受くる雨と降りしく恵の中で一番大なるものは神は私の罪咎を悉く赦し給ふ神で有る事をキリストに由りて認めさせられた事である。赦すと言ふ事は親切の最も美はしいものである。私は功なくして此の美はしい親切を受けた。私の心に印刻されてある神の觀念の中にて最も鮮太に記されてあるものは、實に赦の神と言ふ事です。

次にはいかに神を信頼して生きて居るか。私の全生涯は現在も未來も悉く神の聖手に任せ奉つて居る積りである。その信頼の中で特に私の生命的感化となつて居る事は、神樣がこんな私のやうな者でもいくらかましな者になり得らるゝと言ふ信認を置いて下さる事を信じて、後にあるものを忘れ前にあるものを望みて將來に生きんとする意志の生れた事である。是れこそ人間の生き得らるゝ道です。人は將來のポシビリテーに信認を置いて貰はずしてはとても立つ瀬が無い。救はるべき道が無い。神がこの信認を私に置き給ふ事を私は信ずる。最後に私は此の神の知遇に感激して不束ながらも神第一とせずしては居られぬのである。若し神を愛すると言ふ事が烏滸がましければ神第一にと言はふ。然し神は私如きもの、神への愛心もアップリシエートし給ふ事を明に感じる。萬事が破れて行つても人間は「なるべきもの」にならねばならぬ。何事を措いても人格の可能性を展べねばならぬ、私としてなるべきものになつて神の知遇に答へ奉らねばならぬ。これが人間の生れ來た朽ちず破れざる意義と目的とである。

斯如く神と友たる者の社會宇宙に對する關係は如何でせう。大なる人物は大なる關係に於て生きて居る。大なる關係に生きてる人は己の存在の意義と目的とに對して大なるヴイジョンを見て居る人である私共は只自分の爲にのみ生きて居ては大なるライフを生きる事は出來ない。單に己の家族の爲にのみに生きて行くよりも他の家族の爲、否、社會、宇宙、

全人類の安寧と幸福とを思慮に置き、廣く人道に責任を感じて生きて行くのが大なる生命に生きて行くことである。

人生に永遠なるものは實に友情である。神の友情の知遇に感じて、更に、友情の奉仕をなして生きる此神と人とに對する關係に於て自分の生れて來た意義と目的とを發見せるものは人の世の事は如何ともあれ、生くべき姿に生き得るのである。如何なる、逆境に立ちても生を呪ふが如き事は出來ぬ。生命の永遠の春を現在より生き得るのである。

（一九二一、八、二、夕陽會に於て）

村落傳道に就て

ヴオリスまき子

私の考では傳道に村落とか、都市とかはありません。傳道の精神にちがいはありません。これは團體ではありません。生きた仕事であります。若し河井先生の樣な人格がなかつたら、女子青年會の今日あることが出來ないでせう。

町であつても田舍であつても目的と云ふか、材料と云ふべきか、それは人間であります。こゝに都會と田舍の少しちがふところがあります。

結婚して丁度今から二年前に只今居ます地に行つた時には自分でもどうして此先よいかわかりませんでした。しかしだん〳〵なれて今では「異人さんしつけい」といはれるところが私の家であります。

都の人は虚榮に富んでゐる樣な氣がします。田舍の人は質朴です。また都の人は總てが飾り氣があつ

て、ほんとうでない樣ですが、田舎の人にあふとほんとうに人間にふれたやうな氣が致します。

ある人は都に居ると基督敎が金メッキになつてゐると申しましたが、田舎にはさういふことはありません。ですから都の人はともすると一度求めた信仰上で非常に苦しみます。田舎の人はがんこですが、一度わかつたらほんとうです。確乎たる信仰生涯に入ります。

私共の事業はそのはじめ實に一つのからし種であつたのです。

四十年前アメリカの小さい町に娘さんがありました。結婚して子供が出來ました。その子供が生れるまで其方は實に淸い精神的の生活をいたしました。そしてどうかして生れた子供をよく育てたく骨を折りました。人間を高尙な人間にしやうと思ふなら、この樣に生れおちた其時から親は其子をうやまつてとりあつかはなければなりません。

さて其母親は其子の三つになつた時から敎會につれてゆきました。そして其子の祝福を祈りました。また畫をかく事がすきだつたので、其道の方もならはせました。天才とも云ふべき其わざは日毎に進んでまゐりました。或日母は何氣なしに子供の机のひきだしをあけてみると其中に若干の金が袋に入つてをるので、大變おどろき、淸かれと願つてゐた我が子も盜むことをおぼへたかと悲しみなげきのうちより、我が子を呼びよせ、靜かに事情を聞けば、それは敎會の獻金で神樣に收入の十分の九を差上げるのだと平氣でをりました。それをはじめて知つて、其母は感謝の涙にくれました。

十二の年に或日聞いた傳道說敎が身にしみ、其日から傳道心がおこりました、子供の時に己に家の圖面を引くのがすきでありました。そして自分は建築師になつてお金をため傳道師を助けやうとまで考へました。

カレジに入りましたが、二年目からお金がなくなりましたので或時は料理屋の給仕をし或時は本を賣

つてあるきました。同じ年に夏期學校にまゐりました。その時にスチユーデントヴアランテイアに入り生涯傳道事業につくすと云ふ決心をいたしました。

一人ぼつちで盡すところを望んでゐたその矢先日本から或田舎の先生にきてくれとの手紙を受取りました。早速承諾して日本にむけ出帆し、爰にはじめて旅裝をとゝのえ近江八幡に行きました。

はじめは實に淋しい、思ふことを話す人がない。しかたがなく、ゲームをするのに、皆をよんだのです。そこでだん／＼人がふゑ、先生のお宅へくるのがたのしみでした。その時になつてはじめて聖書を出して皆にきかせました。ところが皆がおもしろくなつてしまひました。

惡いことには其近所に遊廓があり、非常に墮落した生徒がありました。此聖書の研究の評判が高くなつたので町でかぎつけました。坊さん達がかぎつけ學生を後からあほきたてゝ騷ぎ出しました。

學校側では月給をあげるから、さはがさないでくれ、さもなくば辭職して下さいの、さはぎがありました。どこまでもキリストにつかへる彼は遂に辭職し其日より學校との縁は斷たれました。最早此時は青年會が出來てゐました。丁度其頃卒業期當時とみえて、日頃可愛がつてゐた一人の生徒が自分の證書を先生にみてもらおうと勢込んで入つてまゐりました。

先生のお顏みて、あまりに不愉快さうなので其わけを伺ふと、悲しいその物語り、思はずもそうして語りつ語られつゝゐた師弟は、そこにひざまずいて祈りました。

先生は其時「神よ若し私に三圓五十錢をあたへて下さるなら、私はどこまでもこゝにとゞまります」と切なる祈をさゝげました。

これを聞いた其生徒は感動し遂に父母の許にかへることを止め、今迄通り父母より二十圓のお金を送つていたゞき先生と二人で暮すことになりました。

併し誰一人おとづれる人もなく幾月かを二人で祈

りくらしました。其内に二十五弗と云ふ寄附がありました、そうしておるうちに幼き頃より覺えた製圖に關してのことが役にたち、建築事務所をこしらへそれからつゞいて、こゝにはじめて近江ミッションと云ふものが出來ました。これは實に一人の人の胎内傳道が實を結んだに外ならぬのであります。

こうして、同じ精神をもつた人々の一家族は、多少の機關が出來、肺病々院、建築事務所、輸入する機關及ギャリリー丸と云ふ船が與へられました。これらに働いてゐる人は近江ミッションに生涯つかへる雇人であります。そのミッションの目的は近江全體の傳道、但しすでに他の仕事があるところはたずさはらないこと。

肺病の病院は病人をなほすところで、金もうけのきかんではありません。其病院の建築もダクター、デイクンソンが世界の六十三の模範の建物の内の一番いゝのの一つといはれました。將來看護婦の養成所をつくらんと計畫しております。

建築事務所はお金を外からもうけるのも必要でありますが、猶働いてゐる人をよくし、そのビジネスはすべて基督教主義であり、惡いあそびをするものはさせない、若しその樣な人がある時には全部が責任を負ふ。働く時間は八時間、冬は七時間であります。日曜日は必ず休みます、決してコンミッションをとりません。働いてゐる人は生活の費用によつて月給をもらつてゐます、ですから來る時に話をして了解してもらふ、どんな小さなところをしても傳道の働と思つてくれとよくいつてきかせます。

誰も頭でありません、誰一人特別にお金が多いことはありません、ガリリー丸はダクター、ハイドが寄附して下さつたものです。琵琶湖の西の方には汽車がありませんからそれに乘つて傳道に行きます。

どうして傳道をするか、それは研究のたねでありますから皆が頭をつかつて思ふやうにやります。今は個人傳道です、バイブルクラスも澤山あります。

靑年會も盛です、商業學校の中にもそれが機關に

なつて出何かけて居ります、鐵道院にも青年會を入れるやうになりました。次には運動場をこしらへ、そのうちに理想的の學校をこしらへたいと思ひます。今大問題となつてゐる男女の教育交際にどれ程自然的の關係をみるか、しらべたいので、これは理想であります。

お金の方はどうゆうふうになつてゐるかと云ふに働いてゐる人は六十人位です。或時にははたべずに暮したいと思ふこともあります。仕事に限りがありません。また寄附金をねがひません。併し時々思ひもうけぬところからいたゞきます。

村落傳道だからと馬鹿に出來ません。日本の人々は七部が田舍の人です。町とはず田舍にまで社會の腐敗は浸入して居ます今日、村落の傳道は大切であります。どうぞ皆さんも同じ靈で同じ考へをもつていたゞきたう御座います。(存文責記者萩村)

聖書研究

ピリピ書講解(十二)

佐波亘

□今回は四の十以下です。始めてこの書簡の筆者パウロは九節にある「平和の神、なんぢらと偕に在さん」とある語で筆を擱かんとしたのでせう(ローマ書十五の三十三ヶ見よ)。然るに彼は二の二十五―三十三にあるやうに、エパフロデトを遣はさんとしたので、その時彼の胸中に往來してゐたピリピ教會の好意に對する彼の感謝をこゝに重ねて述べざるを得なんだために、再び筆を取上げて以下の如き文章をなしたものでせう。

□「汝等のみにして他の教會には無かりき」(十五)とあ

るから、この點（使徒を好遇する）に關するパウロのよろこびと感謝は蓋想像にあまり、且ピリピ教會自身もこの點に就ては窃に誇としてゐたことであつたらうと思はれます。すべて戰鬪には後援を要します。傳道は戰鬪です。それ故そこには戰士をして後顧の憂なからしむるのみでなく、進んでは勇敢に戰ひ得らるゝだけの後援が必要です。言ふまでもなく傳道のための諸機關が有力なる後援をなす場合に於て、戰士はよろこび勇んで名譽ある討死をいたすでせう。否、その場合には彼は死なざるを得なくなるでせう。彼の皇后エステルをして「我もし死ぬべくば死ぬべし」（エステル書四の十六）と言はしめたものは何でしたらうか。

□「我は卑賤にをる道を知り、富にをる道を知る。また飽くことにも、飢うることにも、富むことにも乏しき事にも、一切の秘訣を得たり。我を强くし給ふ者によりて、凡ての事をなし得るなり。」「我は如何なる狀に居るとも、足ることを學びたればなり」（四の十一―十三）凡そ平和にして歡喜あふるゝばかりなる生活はこの外にありますまい。併し乍ら知足といふことはなか〱難しいことです。實際に就て御覽なさい。貧に處すことの不可能者は、富に處すことも不可能ず。富に處すことの不可能者は、貧に處すことも不可ぬではありませんか。

□こゝにパウロは三度も繰返して、自己の生活の極めて充足してゐることを告白して居ます。おめでたくでき上つた小成に安んずる者ならばいざ知らず、進取の氣象に富んだこと彼の如き人物にありて、然もこの場合の如き困難なる生活に處し、なほ且その生活が安定を得てゐやうとは、眞に驚くべき事情ではありますまいか。顧みて私どもの生活には、ヒステリカルにいらだたぬ日が一年中に幾日ありませうか。

□鎖に繋がれたるパウロがアグリッパ王に「神に願ふは啻に汝のみならず、凡て今日われに聽ける者のこの縲絏なくして我がごとき者とならんことなり」（使徒行傳二十六の二十九）と叫びたる心事も、私ども以上の事實に

よつて略了解することができるでせう。世に最大の幸福にして、且最高の價値ある生活は、パウロの生活に於けるが如き知足にあるのです。

□「これ贈物を求むるにあらず、唯なんぢらの益となる實の繁からんことを求むるなり」「これは馨しき香にして神の享け給ふところ、喜びたまふ所の供物なり」(四の十八)。猿が柿を食べる場合には、彼はたゞ單に木の果實の色と形と味とを賞味するに過ぎないでせうけれども、病人が友から贈られた葡萄のひと房を口に入れる場合には、彼はしみ〴〵とその人の情を味はふことでせう。神の子たる者の生活に似つかはしき愛のあらはれである同情に對して、神は如何に御覧ぜられるでせうか。實にもこの同情こそは人生に於ける衆德の帶であります。さればこそパウロはこの場合に贈物そのものよりも寧ろピリピ教會の人々の心事をよろこんだのでありませう。「仁慈と施濟とを忘るな、神は斯の如き供物を喜びたまふ」(ヘブル書十三の十六)

□「わが神は己の富に隨ひ、キリスト・イエスによりて、汝らの凡ての窮乏を榮光のうちに補ひ給はん」(四の十九)。舊約の箴言には「貧者をあはれむ者はエホバに貸すなり。その施濟はエホバ償ひたまはん」(十九の十七)とあり、またヘブル書には「神は不義に在さねば、汝らの勤勞と、前に聖徒につかへ、今もなほ之に事へて御名のために顯したる愛とを忘れ給ふことなし」(六の十)とあります。

・・・・・

□この講解はこれで終ります。顧みて龍頭蛇尾ならばまだしもですけれども、始めから甚だ不完全極まるものであつて、私はうつかりお引受けしたことを今になつて大いに悔ゐて居る次第です。併し乍らたとひそれが不完全であつたにせよ、私どもがこれを書いたり讀んだりした間に得たところの或物を、幸ひに主イエスの御助によつて、幾分にても私どもの生活の上に實現したいものであると祈つてやまぬ者であります。私は未だ一讀いたしませんが、先頃山谷省吾君がピリピ書の講義を出版されましたから、邦文の註釋書として御一讀をおすゝめいたしておきませう。東京の警醒社で發行になつた筈です。

(完結)

萬國女子青年會に就て

河井道子

昨年の今日即七月廿九日私はバッリーに居ましたが萬國學生同盟會に出席する爲に丁度其夜スイッランドに參ることになりました。

基督敎女子青年會の内に二つの種類があります。一つは市の女子の爲と、他は女學生の爲とです。外國もほゞこれに同じですが學生部と外國で申は高等學校專門學校大學校の生徒の組織せるものです。日本では高等女學校の生徒がこれに入つて居ます故從つて年若く市の青年會の Girls' Work の中にも含まれます。外國では市の青年會と學生青年會とはよほど趣を異にして居ます。米國、日本、及支那には此二種とも女子青年會の中に組織されてゐますが歐洲ではたゞ市青年會丈で御座いまして萬國學生同盟會が卽學生部に當るべきものです。これは男女の學生から成立して居ます故に我々の女子青年會は世界の二大運動に加はりたるものと思ふてよろしい。私が昨年日本を留守しましたのは此二つの會に出席の爲でした。市の青年會と學生同盟會とは密接の關係があります故に委員は相寄り相計ります中には兩方の委員を一人でしてる人もあります。

昨年六月の始スイッランドのシャンペリー山奧で雪を頂いた山の美しい地、そこへ行きましたがこゝでは青年會の幹部の者が集りました。幹事達の外に客人もありまして百人以上の出席者でした。此會の目的は女子青年會の目的を鮮かにする爲でした。

神國建設、心の內と眼に見える世界とをもつと神の聖旨に叶ひ、世界をもつと人間が住み易くなる世界にし、罪より離れて、個人に家庭に、社會に御聖

旨の天になる如く地にもならせ給へとの願卽キリスト教的の婦德を向上させて行くと言ふのが目的であります。此同盟に加はれるもの廿ケ國、正式に加はらぬも關係をもつてる國は、露西亞、アーメニヤ、チエコスロバキヤ、ベルギーなどで併せて卅二ケ國御座います。是等の國々へ巡廻幹事を送る必要があるのです。

萬國靑年會は何をして居るかと申ますれば、同じ主義で方々の市町村に起つた運動で場所により要求により働の方法は異りますけれども其精神は相通じ相一致して居ます。

さて大會に卅二ケ國の代表者がよりました事故戰後直に開かれた此會では吾々の察し得られない交戰國の人々の心の苦しみと面倒とがありました。本會の會長は英國人であり集つた者の中に獨人、露人、墺人など敵味方の者達が一諸に相談をしやうと申のですからなかなか困難がありました。ある佛の人は始めに行かないと言つて居た人が來るには來ましたが開會の翌日敵として居た人と共に神に祈る丈の心にまだなり得ないとて逃歸つた人もあります。

またある會の後で壁に仕事の表がありましたので私はこれを見て居ました。すると偶然にも米、日、佛、獨人とか殘りましたお互は知らずに居ましたがふと氣がついて振かへつて見ました時佛人と獨人の[illegible]が逢ひました。お互はいづれも默つて靜に進みつゝベンチを横ぎつてしばし見合つたのみで默つて近づきました……やがて沈默の中に手はのばされました……兩人はつひに握手しました私は此場の光景を見るのは餘りに神聖でしたから戶を閉ぢて外に出ました。どんな會話が交された事でせう。今猶此場の有樣があざやかに刻みつけられて居ます。苦痛も忘れてクリスチャンウーマンフッドで、運動を共にするのが此會のすることとです。會の最初には二才以下三十才以上の人でなければ牛乳の飲まれぬと言ふ墺國の老婦人の前に獨立の喜を見たチエコスロバキヤ大統領の令孃は嬉しけれども多少遠慮せねばならず

是等の人々の間の調和を計る人など骨が折れましたが最後にはこれではならぬ神にあつて一つになり全く許し合はねばならぬと感ずるに到りました。

萬國女子青年會は此大會にてニユーヨークのミスニペンスをスペンサー氏の後任として萬事幹事に撰び。移民幹事、工業幹事を必要に應じて置くことを可決しました。女子の間にはまだ此働が餘り出來て居ませんが將來私共の大な働場の一であります。

此外南米、印度、阿弗利加、エジプトに來る擴張部責任幹事があります。萬國同盟學生祈禱日の時皆樣から十錢づゝ献金して頂きます其金は此四人の幹事をさゝへ得るのです何卒皆さん十一月の祈禱週に此事をおぼえて頂き度ふ御座います。

昨年の今日即ち八月一日は學生大會協議會に參りました。(男女合併のもの)戰爭の問種々の名のついた萬國的のものは皆交通絕えし爲斷絕せし中に此學生同盟會のみは關係を維持して參りました。日本からは元田作之進氏、と私とが出席し、諸國から撰ばれて責任を持ちしもの六十人前後、其他招かれて諸々の國より一人或は二人づゝの學生卅六ケ國よりでエジプト、印度、セルビヤ、バルカン半島の人々が來ました。もし實業家、宗教家など種々の人來る是等の人が始から合一して居たらば戰爭などはなかつたでせう。社會を鑑みて此會で種々の相談會がありました。一方學生はラウンド、テーブルで協議會をし時々委員と共になつて困難と苦心、傳道などについて語り合ひ或日などは宗教問題に終日もかゝり、學生傳道に新しい方法でキリストの敎を如何にして爲さんかと、學校の敎勢について夜二時間討議の後委員は、學生を歸らして財政の相談をせんとしました時、オランダよりの代表者は今晩は悲しくて事務がとれぬ。學生の頭は動搖してつかみどころがないと言はれると獨の代表者が立つて私も同感だ、皆が異つたるキリストを述べて居る、社會のキリスト、文藝のキリスト、學術のキリストを各々が勝手に述べて居る、各自が信仰を異にして居ると、其から議

論百出、信仰告白で止まる處がない、終に主と其十字架の外に救はない、智者には笑はれ、學問のある人には陳腐な事として笑はれてもせめてキリストの十字架の外に救なし、此中心點に於て我々一つになり得たい、これをはづれては學生同盟會は破れてしまふとの叫びに一同は默して頭をたれ、衷心よりの祈を捧げ會の終つた時は夜中の一時半でした。

皆さん、お友達の中に先生方の中にキリストと、十字架を笑ふとも、世界の學生同盟の人々は全き救は此外にない事と立證しました。

此會合に於て中歐の學生の苦しんでることを訴へに來る者が多勢ありましたので、會衆は同盟會のなすべき仕事として責任をひきうけ萬國の學生や、青年男女にて救濟にあたらんことを期しました、其ゆゑ私ども日本女子青年會が此趣意を發表しましたらば快諾して下さいました學校が五十、個人が十八人と五つの市青年會から千五百圓七月二日の學藝會其他の收入が七月十三日迄に、合計二千七百餘圓集りましたのでこれを同盟の會計に送りました。皆さんの努力を感謝します。しかし日本に五百五十九女學校があります中で五十の學校丈これに應じて下さいました。此爲に秋から更に願つて救濟金を集めたいと存じて居ます。

中歐基金について、米國國務大臣フバー氏は、學生救濟の爲に努力して居られます。大臣自らが米の學生に訴へて「今ヨーロッパに居る諸君と同じ學生が命をつなぐ衣食住や、薪炭なき爲瀕死の場合である。歐洲の將來は是等の學生の學校に止まつて勉強するにあるから。金のない爲に他に職を轉じなければならぬ彼等を助け得るものは you and I 貴方と私の外ない。二百萬圓の金をつくるには諸君が十弗づゝ出せばよい、米國の學生が各自三弗づゝ出せば十萬人の學生が助かる」と言つたやうな熱心な調子、ですから、學生も亦種々の方法を用ひて居ます。一つの學校で此目的のため三萬二千圓も出した所もあります。金高は必ずしも言ふところではありません

私どもが世界々々と言ふならば何か世界の爲にしなければなりませぬ。彼の中歐の地では自殺者が多くあり、肺病の人もある。働はない工場は多くは閉鎖され、たま〱働んとすれば、勞働同盟があつて學生は入り得ません。女子は下着を着得られない者が多勢です、其影には精神的の死人も澤山あります。

先年スウィツランドに七十圓の金を修養會の時集てお茶代として送りました。昨年スウィツランドでお茶を飲んだ數人に逢ひました。其人達は其時の嬉しかつた事を語られました。代議士の談よりも、十錢二十錢が大な雄辯です。日本の救の爲に働くのもよいが世界の救はれる爲に働くことも亦大切です。學生同盟會では常議員が八人おかれて居ます。序に申し上げておきませう。

タトロー氏(英人)、ハンペルグ氏(獨人)、モリー氏(彿人)、カーター氏(カナダ)、ポータ氏(米)、ダター氏(印度)、プランシャード女史(米)、ラドガース(和蘭)、　會長モットー氏(米)、副會長ワング(支那)、同河井道子(日本)。此外幹事五人(四ケ國の代表者)が置かれて居ます。

明年四月支那で眞の大會を開く事になりました。昨年の會合に支那より三人の代表者が來て、次には必らず支那で開いてほしいと賴みましたので多分北京で開かれます。日本からも此會に學生の代表者を二人出してほしいとの事です。私は是非女子からも一人出し度いと存じて居ます。支那ともつと親しくなるやうに責任をもつて代表者を選んで頂かねばなりません。今から皆さん考へてゐらして下さいまし。

私共は世界的と申もの、何處にても私どもの働く所に聖旨の天になる如く地にもなるやうに、世界をもつと住みよい、神の國とする爲に皆さんと共に努力したいと申外はありません。

(萬國學生同盟會本部、支那　米國の各支部に第十六回修養會より挨拶を送ることに決定委員を擧げてこれを托しました)

東山荘の一週間

岡崎小文

御殿場に着きましたのは七月廿八日十二時半でした。先發隊の方々は二十七日に來られたので數人のお方が驛にお迎ひにゐらして居て下して、荷物のお世話など一切して頂き七人自働車で東山荘に乘りつけました。ライスカレーの御馳走に元氣を得、ゐらした人々の聖書の組分けのお手傳をし、第一夜は河井總幹事の開會の御挨拶をもつて始まりました。「我夏季修養會は十六年前に始まりました。此修養會に出席された方が世界の方々に散つて居られます朝鮮で、臺灣で、シベリヤで、米國で修養會で會つた事があるとてお迎ひに來て下さいました姉妹方があります。吾々のむつびは世界に散つて廣くなります。學校の人、町の人、女工、女中方の爲にも開き度いと願つて居ます。

修養會は合奏であります、幹事委員のみの仕事でない、各自がよき捧物をする、そして調子を破る人が出來る故に注意を要します。若い人の活氣はよみすべきも新しがりやにならず、難かしきを求めず、神の事を學ぶ時には平易な言葉を用ひ易しい中に貴い教を受けられるのです。キリストは幼子をほめ幼子の如くならずば神の國に入る事を得ないと仰つしやいました。パウロは學者でしたが吾は汝等の内にありてはイエスキリストと其十字架の外は語るまじと哲學者の間に手紙を送りました。「神よ是等のことを學者智者にかくし幼子に示し給ふを謝す」幼子の心をもつて神の國の奥義をお互に受入れたいものです智識を求めるのはよろしいが「受くるよりも與ふるは幸なり」私どもは皆様にあげる丈でなく皆樣から

受けたい學びたいと思つて來ました。受入ること丶與へることと費ふことこれが皆さんを眞に生かす業です何卒此修養會を通して此精神をもつて調和ある合奏をしたいと存じます」。

一同緊張して望に輝いて就眠しました。

毎朝五時半起床の板木の音と共に飛び起き早天祈禱會に出席しました本年は一週間を通じて祈會に約八割の出席者を見ました。三方を開放した二階の講堂後の森からは鶯の歌が聞え、正面には富士の偉峰を眺め清新な空氣の中に北より南より西より東より集つた百餘の姉妹と心を合せて親しく父なる御神と交り得た幸は何物にも例へられません。あのすがすがしい氣持、御靈の力が降そゝいで何とも言へぬ底力を感じました。三十分の祈禱の後運動場でミスフエーリス指導の下に Setting up の運動が盛に行はれました。

毎朝八時河井先生司會の下に行はれた禮拜一週を通して神と交ると共にインストラクティブな貴い禮拜をしました。八時二十分から九時二十分迄五組に分れて聖書を學び九時半から時には十時十分前から講演がありました。今年は「爾等先づ神の國と其正義とを求めよ」と言ふ標言で御座いましたがどの先生方も申合せたやうに此主義と理想とで一貫したお話をして下さいました。どんな鈍い人でもあれ位各方面から同じ事を説かれて悟り得ぬ、知り得ぬ人はありますまい。信者は更に新なる惠を受け決心を新にされ未信者の方三十五人中三十二人の決心者を出しましたのはたゞ神の御力と一同感謝の涙にむせびました。

一時の感情に走しることは私どもは好みませぬ。しかしながら數年、數月、數日の間用意のほどなりし人が機會を得て改悔されましたあの最後の八月四日の朝の光景……誰も彼も感謝の涙にうるほふた神聖な感じは永遠に失せますまい。

本年の協議會は例年と趣を異にし、クラブの大略を實際に演じて參考に供し本部の日常生活を實演し

何をして居るかと言ふことをお知らせし、學生青年會の報告は幹事が手分けして聞き總括した報告があり、又市青年會の働について代表者から報告を受けました。夏季聖書學校に就いてコルマーン氏のお話がある筈でしたが止むを得ぬ御事情の爲御出で下られなかつた事は殘念でした。

午後は一時から二時半迄靜思で三時から五時の間に或は親睦會、音樂會、競技會など盛に行はれ、夕食後グループミーテイングがありましたがこれは今年は少々不成功のやうでした。夕陽會を野外でいたし度ひと存じましたが、お天氣の都合で果しませんでした。二日の夜はミスフエリスのお話の後フオークダンスの實習を講堂でしました。天井が落てはならぬと言ふので數組に分れて致しました、後一同テニスコートに出でキャンプファイアーを致しました夜の闇に松とヒバの焰が美しくも燃上つてる周圍には若い乙女が種々の印象を受けながら沈思する者もあり、笑ひ興ずる者もあり、薪くべに忙しい人、マシユマロを分配する人、竹につきさして燒人樣々でした。私はレオナさんと二人でネロ皇帝の火事、日曜學校大會の火事、エリヤがカルメル山上の火、東山莊の信仰の火など斷片的に語りかはしました。私は殘る二日に此火の如く信仰が燃えるやう、聖靈の火が吾々を淸めるやうに講演者と來會者の上に神の力の加へらるゝやう心の底から祈らずには居られませんでした。

晩の講演は肩のはらぬ多方面の智識と興味とを與へるものでした。國際問題に村落傳道に衞生問題に大に考へさせらるゝ所がありました。

八月四日の晩の閉會これは特筆せずには居られません。丁度此日の午後はミスハミルトンと、小池孃との御盡力で樂しい音樂會を催し、其後で閉會式の爲に歌を練習し一同の心は何とも言はれぬ感謝に充て居ました。七時に階上の講堂に集り河井先生の感謝と奬勵の辭がありました後一同は二列に分れローソクを各々降口で受取り"Father of lights"の歌を

歌ひながら運動場の中央から一直線を描いて正面に進みますと其所には純白の幕にグリーンの飾をした前に河井先生が大なキャンドルに火を點したのをかゝげて立つてゐらしやいます。私どもは遽作りの二三間の百合花垣の間を登つて各々のローソクに火を受け、ずらりと二列に人垣を造りました其間を其日決心された三十二人の姉妹が左手に白百合花右手にローソクをもつて靜に進んで火を受けに行かれる間一同は

「あまつみつかひよ　エスのみ名の
　ちからをあふぎて　主とあがめよ」

をくりかへし火を受けた姉妹方を迎へて大な圓形の輪をつくり三十五番

「聖なる聖なる　聖なるかな
　みつにいまして　ひとつなる
　神の御名をば　あさまだき
　おきいでゝこそ　ほめまつれ」

を歌ひ、火を消しますと下關の秋元先生が「夕日はかくれて」の獨唱をして下さり河井先生から第十六回日本基督教女子青年會夏季修養會をこゝに閉會しますとのお言葉があり一同お別の歌

「神とともにゐまして行く道を守り
　あめのみかてもて力をあたへませ」

を歌ふて散會しました闇の空に星がミスチカルにしばたゝいて天の秘密をさゝやいて居ました。

いろ／＼の方面に姉妹方が喜んでお働き下さりお助け下さいました事を感謝して居ます。

　誰も居ないたつた一人の世界に
　ぼつちりと坐る時
　私の心の中に強い望が燃える
　一切の汚から離れて
　至高の天にあまかけり度い心
　久遠の光に突入し
　醜い姿を至上の光につゝまれて
　慈愛の心に充ちたい望。

（一九二一、八、一五）

誌友の欄

投稿歓迎　締切毎月十五日

三つのホーム

米國にて　中西司娜子

第一のホーム

米國へ來て殆んど一年。私の生涯の二十何分の一なる米國生活は、それが最近である故に、現在である故に一番はつきりして、最意味深い一年の様に、思はれる。但しやはり深く考へて見ると今の自分は芝居の舞臺で役をつとめてゐる様である。毎日の様に幕が變つて私は新しい面白い役をつとめてをる。あまりはつきりとしてをらない背景は過去の自分家庭の自分、學生時代の自分、東京女子青年會の自分、此背景は淡いけれども毎日同じで決して變らない。今毎日ステージ上で一生懸命役をつとめてをる私はいつか此芝居を切りあげてあの背景の地へ歸る時がある。そこは私の休み處、おちつき得るホームである。

ホームを持つ者は幸である。ホームを去らぬ者にはホームの意味を解する事は困難であるホームへ歸つたらホームの價値を減ずる様な氣がする。遠くにホームを持つ者は幸である米國の友達は學校がすむとホームに歸る、夏休みをホームで送る。何故か私はそれが羨しくない。遠くにホームを持つ方が幸の様に思はれる。

第二のホーム

ニューヨークの學校は私の一年間のホームであつた。一年間度々此ホームを去つて旅行してはホームなる學校へ歸つて行つた。六月八日卒業式と共に私は此ホームを失つた。但し私は九日にフイラデルフイアを訪問して十日に學校に歸るまで此事實を悟らなかつた。十日に學校へ歸つた時、私の室も他の室もきれいに殺風景に片付けられて、友達も誰もゐなかつた時、私は孤子の様な氣がした。我知らず「此國に私のホームはなくなつた」と心の中でくり返した。

それから私は今日まで一ケ月程の間に十の異つたベットへ寢た。皆歡い心地よいベットであつた。行く先々を私のホームにしやうと決心した。船の上でも汽車の中でも、ホテルでも、私の籐椅子あり、ベットの用意された所は私のホームである。私のホームは行く先々に必ずある。

第三のホーム

いつか私共の地上のホームを去らなくてはならない時が來る。其時私共には別のホームがある。どんなホームからしら。此世の忙しい活動の後にうすく、いつも永遠のホームがあらはれてゐる。現在の世界は毎日變化しても人間によつて築かれた物が破されてもうすい背景は決してよどまない消えない。私共が地球といふ舞臺を去る時、私共には歸る所がある、永遠のホームを持つ者は幸である。(一九二一、七、一三)

寂しき幸

やむもよしこゝろとこゝろいやきよく
あふ夜なりなど笑みませしきみ

吾が背子は今は父きみ母きみと
まとゐますなりあまつみくらに

君ますとおもえはいよ／＼戀しかり
雲のかなたのあまつ御國の

わが死をぞさゝぐべかりし君が死に
よりてわが得しすくひなりせば

泣きぬれてふりあほぐ目にあさましく
うつるは窩にあへぐ世のさま

地には地に天には天にわがちゝの
まとゐはひろしたのしからずや

遺されし妻

永遠の生命の門

伊勢　竹馬

修養會は、私にとつては最初の會でありました。あの山と湖とにつゝまれた自然の中に又朝夕にさえづる小鳥の聲の中に、私は何と

も云ふに云はれぬ一種の感じをもちました。又あの晴れ渡つた富士の嶺或は澄みきつた湖の面、あらゆるものに對して私は神の聖力の偉大な事を感じないではゐられませんでした。一週間のあの靜かな生活の中に私は果して何を得たでせうか？　私は日一日とだん〳〵神のみもとに近づいて行くやうな氣がしました。

さうして又、神樣は限りなく大きくゐらせられて、又かぎりなく小さへゐらつしやると云ふ事を深く感じました。前にも申し上げたやうに、ほんとうにあの自然の景色をみてゐれば、ゐる程、神の聖力は大きいのです。さうして又、ふりかへつて自分といふものについてこまかに考へて見れば、みる程、この一條の髮の毛にさへも神樣の聖力のそはつてゐないものはないのであります。かうして、すべてのものを、その創造の本にかへつて考へてみると、又次ぎには神樣の慈愛が如何に大きいかと云事について考へないでは、ゐられません。ほんとうにこの宇宙の始めから、神樣は、どんなに人類の爲に、大きな愛をおそゝぎになつたでせうか。そして、それに對して我々は、どんな心持ちでおつかへしてきたでせうか？　實に、私はお話するにたえま神ん。

神樣は我々の爲に可愛い、一人の御子を、おくだしになり、其御子は我等の罪を負ひ犧牲となつて下さつた事を考へては、實に身もちゞむばかりの感じがします。そうしてこの主の貴い血によつて我々は潔められたのです。何と神樣は愛に富み給ふのでせう。我々この愛の主を信じ、この主の血によつて、きよめられ、新らたに生れなければなりません。主は罪なき身を、かやうに我々の爲にお捨てになりました。十字架の苦しみをもつて我等を救つて下さいました。私どもは、どうでせうか、他の爲に一條の髮の毛でも失つた事がありませうか、私はお恥かしい事ながらこれに對して、ハイ、と云ふ答が出來ませんそして苦みをもつて、人を救つた事があつたでせうか。私どもの前途には多くの惡魔もゐれば、敵もゐます。そうして私どもと戰ふと皆用意なして、待つてゐます。けれども我どもは、主を信じる事によつて、主と共に歩んで行くならば、遂には榮の門に至るでせう又たとへ途中如何に苦しくとも、主の十字架上の苦しみを再び思ひおこすならば、そこでぐず〳〵してゐるべきではありますまい。

この感じが日一日と強くなつてきて、遂に最後の日あのおどりたつやうな、木村先生のお話の中に、いよ〳〵、主を信じやうと決心をし、あの席をたつて講壇の前に行き、姓名を記した、三十二名の中の一人となつたのでありました。

あゝ、あの靜かな一週間の生活、ほんとうに、私は、めぐまれた身でありました。どうかして、あの時の心持を永久に、私の心に留るやうにと、祈るのでありました。あゝ、あの最後の夜暗に光つた、たつた一本のローックの光、私は永久にわすれたる事が出來ません。　私は今後どんなくるしみに出逢ふとも主と共に歩み、主と共に十字架を受けやうと決心したのでありました。

東京　北原　遼子

私一週間に、ほんとにこれまでの自分の神樣に對してあまり小さい考を持つて居た事、信仰に對してあまり臆病であつた事を感じました。もつと〳〵眞面目に考へるべき問題である事に氣が付きました。

本村先生の澳に出でよのお話は、淺瀬に立つて、安全と思つて居りました私をほんとうの安全の深みへ導いて下さいました。忍耐して〳〵、限りない愛の働きを授け給ふ神樣に自分の心の器をからにして、飛びこみたくなりました。暗黒の世に何か得やう〳〵とあせつて居ましたが光の世でなくて、何を得る事が出來るかと知りました。人と交際いたしますにも何を致しますにも常に神樣はどうなさるかを考へて神樣を對照にして行かねばならない事を知りました。

どうしても〳〵生涯天の父のよい子でなくてはなりません。中略神樣から内も外も武裝をしていたゞき奮闘します。最後の日に神樣の前に誓ひました、此手で自分の接するものすべてゝ聖化して行く事に勉めまゝ、心より神を慕ひ漸れば聖繁に必ず〳〵導き給ふと確信します。

横濱　吉田菊代

私は今年の修養會で眞に神様を知る事が出來ました。家に歸り、木村先生のお言葉の通りに口でなく手足を働かして居ます。父母を始め家内の者は皆喜こんで居ます。私もこれからは神の僕として暮す事の出來るのをほんとうに感謝して居ります。今私は女學校の三年生ですが卒業迄には一人でもお導びきしたいと決心して居ります。

神戸　篠内操

私共生れて始めて接した修養會、實にくく目に見えぬ尊い賜を澤山頂き今尙自分の心は一ぱい滿されてゐます。元氣に充ち、希望に溢れて居ます。九月からは一生懸命に我が青年會の爲に働きませう。

横濱　渡邊はる子

長い間色々お世話様になりましてはほんとうに、有難ふ御座いました。今までに爲た事もない様な有益な日を送る事の出來ました事を心から感謝して居ります。之も一重に先生方の御蔭と有難く存じて居ります。横濱に歸つて參りましたらほんとうに堪へられない暑さで御座います。並以上の暑氣の甚だしい本部事務所にいやな臭氣をかいで御多忙にゐらつしやいます先生方の御苦しみお察し致します。何卒御病氣におかゝりなさいませんやう御氣をつけ下さいませ。

横濱　林京子

五日の朝あの山、林、池、御家と御別れ致してから私は一體幾つの善い事をしたでせう何だかお洗濯をして手の皮がむけました。又妹のおべゞのしぼりを學校で習つた通りにしました手に紫の色がはいつてしまひました。中略私の生涯は今までよりも一步高められた事を感じて居ます又委員の先生方に對して其お働きに表す事の出來ない感謝を持つて居ます。

下ノ關　坂倉君子

修養會に於ての凡てを御證申上ます。神のくしき御みちきによつて、彼の美しい偉大な自然の中に於いての淸い會に行く事が出來短い一週間とは言へ實に淸く理想の世界に過す事が出來ましたのは私の生涯を通じて忘れる事が出來ない時期で、それは私の日記帖を深刻に色彩つた事柄ばかりで御座いました。而して私の生涯に於ける目的を左右しやうとした程大膽な時期で御座いました。私はパラダイスと言つてもよい彼の地を去る時、たまらなく悲しく汽車の中にてもうつらくく眠りに入つて居ります時でさへも東山莊の景色が走馬燈の如くクルりくくと映してなませんでした。今は尙の事、其な一步越し一少し前に私が彼の地に居つた事が夢の様に感ぜられます未知の人と交を結び得たのは偶然でなく聖旨の實現と感謝して居ます。皆様の强い信仰と諸先生の御熱心の御働きは更に私に責任を感じさせられ勵まされました。

横濱　二宮愛子

一週間と申せば長い様な誠に短いもので御座ました色々の望み持つて待ちこがれ居た修養會も最早過ぎ去つて仕舞ひました。私が修養會に參りましたのは今年が始めてゞ御座います而し私に取てあれ程淸い美いそうして印象深い生活は未だ曾て送つた事が御座いません。本當に豫想以外で御座いました心の內は只嬉しく淚で一ばいに成つてゐます。今までは多くの賜物を得ました是からは私が他の皆様に出來る丈御分け致したいと思つてゐます。

神奈川　藤本みや子

御恩寵の下に一週間も樂しく過し、多く敎へられ喜んで歸りました、五日の十一時半に無事歸宅致しました、一週間先生方の御親切な御世話を受け誠に難有う存じました。家の者も皆喜んで居りますので私も感謝致してゐます此夏休には敎へられやうに一生懸命に働きます。

【消息】

□河井道子氏。渡邊百合子氏と共に伊豆長岡の溫泉に御靜養中八月十九日輕井澤に赴かる
□加藤高子氏。七月末新潟に御歸省、御父君御病氣の爲修養會に御出席なく「神の御力を祈る」との祝電を給はる。
□坂本花代氏。修養會に數日御出でになり盛に御活動の後御郷里よりお料理の講師に招かれ會の中頃、岡山縣へ御歸國。
□淺井治子氏九月大阪に總幹事として御赴任
□堀順子氏。七月廿九日鹿島丸にて米國へ向つて鹿島立され船中より 度電報來り「ワタ・シハエライスイヘイサン」などゝお元氣盛。
□細谷春路氏。秋より本部事務所を助けらる
□長谷川喜多子氏。御殿場二ノ岡のウオーカースカンフアレンスに八月一日より二週間御出席
□三谷民子氏。同氏も二ノ岡のカンフアレンスに數日御出席の後日光に避かれたり。
□星野愛子氏。山田琴子氏と共に九月開校まで御殿場二ノ岡に御滯在。
□志立ヤナ子氏。御兩親と共に本夏を御殿場二ノ岡の別莊に過さる修養會にも數度御出席幹事數名をお茶にお招き下されたり。九月よりは第一高等女學校に教鞭をとらるゝ由。
□大小耕成氏。同氏は我修養會の節御丁寧なる電報を送られたり。
□野口精子氏。安道坂の寄宿舍生をお教へ下さる、本郷教會牧師夫人は半年以上御病氣の處遂ひに八月一日御永眠。

編輯室より

□本號は修養會號として皆樣の御目にかゝります。七月號のプログラムに引合せ御讀み下さらば面白からふと存じます。修養會に御出席遊した方々には珍しいものが少いかも知れませんが、今一度御熟讀遊すのも無益ではありますまい。私も一度聞いたお話ながら讀んだり書いたりして居ますと更に新にインスパイヤーさるゝ所が少くありませんでした。又修養會に御出でにならなかつた御方々は是により同會の内容の一般をお推し下され御修養の大な助となる事を確信いたして居ます。
□毎月連載の森田先生のプレシコフスカヤ譯は紙數の都合上本月休載。
□長い間お講義下さいました佐波先生の聖書研究は本號をもつて一段落となりました。又時を得て御教へを願ひたいと望んで居ます。
□淺井氏と共に私は修養會後十日餘り二ノ岡の廣岡別莊でデーコネスナップ氏主催の下に開かれたウオーカスカンフアレンスに出席しました。「神の國」について大變によいお話を聞きましたので其内に御披露いたしませう。
□涼しい風がおとづれ思索と讀書に適しい秋となりました。見ゆる世界の收穫に跳る心な見えぬ世界へ更に深く向り度いものです。(小文)
□八月號中歐寄附金寺田初代氏拾錢は拾圓の誤訂正

摘要

△本誌代金は總て前金にて御拂込被下度、前金切れの捺印有之候節は直に御拂込被下度候
△御送金は振替にて拂込まるゝ方便利にて且間違も無之候、但手數料壹錢を御加へ下され度候。
△振替、東京、貳參七貳參番

「女子靑年界」定價及廣告料

定價郵稅共

	内地	海外
一部	金十五錢	金拾七錢
一年前金	壹圓五十錢	金壹圓八拾錢

廣告料

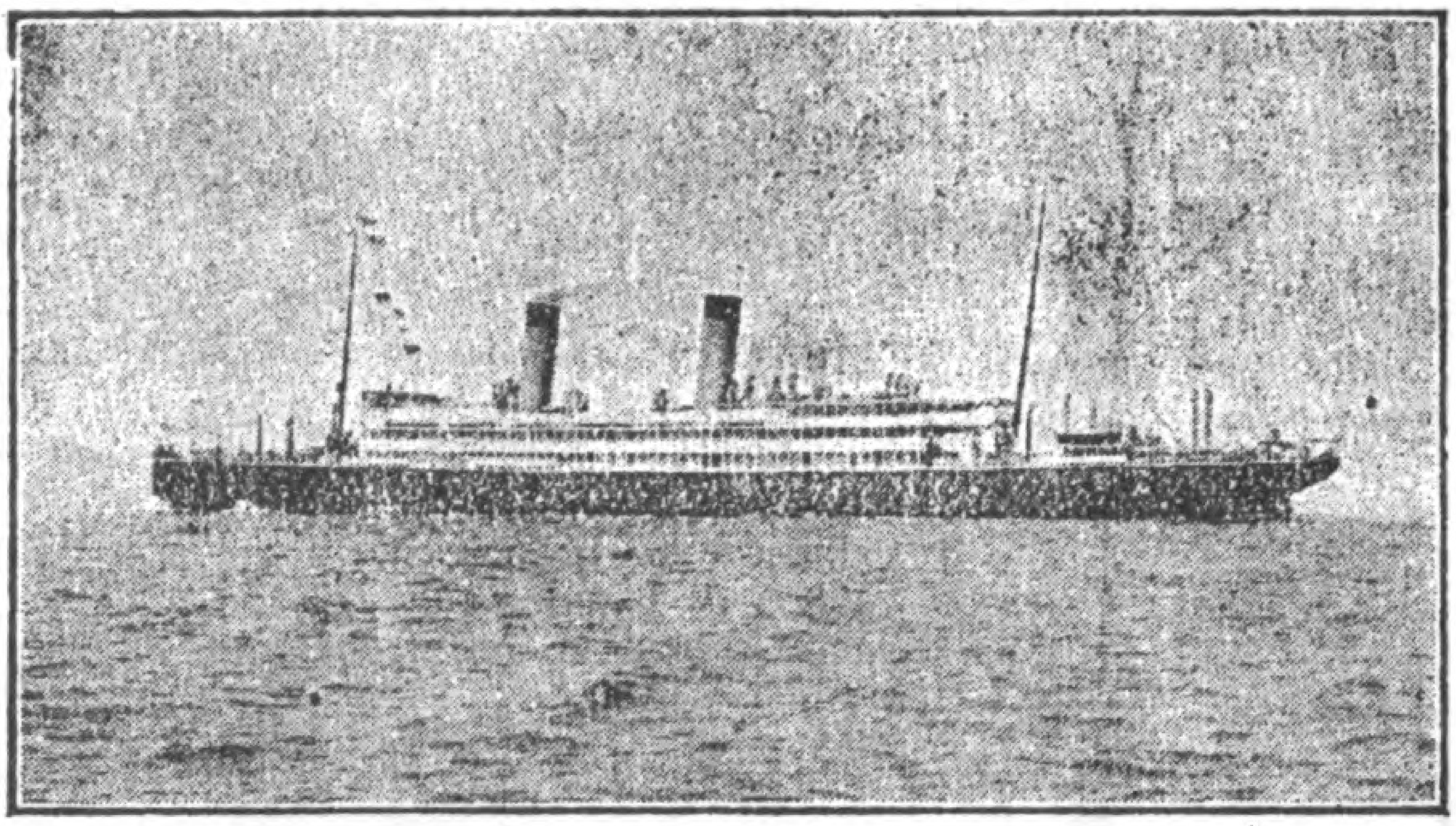
一回掲載	
一行	金五拾錢
四分一頁	金五圓
半頁	九圓
全頁	金拾五圓

年極又は回數により割引有

大正十年八月廿八日印刷納本
大正十年九月一日發行

發行所 神田區錦町一丁目十六番地
日本基督敎女子靑年會
電話 神田三六五二番
振替東京二三七二三番
發行兼編輯人 神田區錦町一丁目十六番地 河井道子
印刷人 芝區三田和泉町七番地 前川吉次郎
印刷所 右同所 三成舍

東洋汽船株式會社



本社 東京市麴町區永樂町二丁目一番地(電話丸ノ内 一五三〇、一五三一、一五三二、一五三三番)

營業所 横濱市山下町五番(電話本局 四四〇〇、四四〇一、四四〇二、四四〇三、四四〇四番)

出張所 神戸市京町八三番。香港、キングス、ビルヂング。上海四川路ノース、チャイナ、インシユランス、ビルヂング。マニラ、チャコビルヂング。桑港、マーケット街六二五、マーチャンツ、ナショナル、バンク、ビルデング。紐育、ブロードウエイ、一六五。ホノルル、アレキサンダー、ヤング、ビルヂング。

北米航路(桑港、布哇ホノルル、横濱、神戸、長崎、上海、マニラ、及香港間)

本航路は太平洋航路中氣候温和、海上平穏なること第一にして船舶の巨大、設備の完全、待遇の懇切とに由り航海最も安全且つ愉快なり

天洋丸	三重螺旋タービン機	排水量	二二、〇〇〇噸
春洋丸	同	同	二二、〇〇〇噸
コレヤ丸	双螺旋機	同	二〇、〇〇〇噸
サイベリヤ丸	同	同	二〇、〇〇〇噸
波斯丸		同	九、〇〇〇噸

南米航路(香港、門司、神戸、横濱、布哇、桑港、羅府、墨國、巴奈馬、秘露及智利諸港間)

本航路は東洋南米間唯一の定期航路なり

安洋丸	排水量	一八、七〇〇噸
紀洋丸	同	一七、二〇〇噸
靜洋丸	同	一四、〇〇〇噸

各寄港地及各國樞要都市に代理店の設置あれば船室保留並に發着日割等は最寄に就て御問合せを乞ふ

女子青年界第拾八卷第九號（毎月一回一日發行）
大正十年八月廿六日印刷納本大正十年九月一日發行　明治卅七年五月七日第三種郵便物認可



一部定價二十錢